



アジア・太平洋総合研究センター
Asia and Pacific Research Center

インド・ASEANにおける欧米中との 国際科学技術イノベーション協力状況

2025年 8月

国立研究開発法人科学技術振興機構
アジア・太平洋総合研究センター

目次

I.	はじめに	p.2			
II.	インド	p.4			
1.	米国	p.5			
	• 概要	p.5			
	• 会議体	p.6			
	• 協力組織・協力分野	p.8			
	• 具体的取り組み	p.12			
	• 参考URL	p.15			
2.	英国	p.16			
	• 概要	p.17			
	• 会議体	p.18			
	• 協力組織・協力分野	p.19			
	• 具体的取り組み	p.22			
	• 参考URL	p.24			
3.	ドイツ	p.25			
	• 概要	p.26			
	• 会議体	p.27			
	• 協力組織・協力分野	p.28			
	• 具体的取り組み	p.31			
	• 参考URL	p.32			
4.	フランス	p.33			
	• 概要	p.34			
	• 会議体	p.35			
	• 協力組織・協力分野	p.36			
	• 具体的取り組み	p.39			
	• 参考URL	p.42			
5.	中国	p.43			
	• 概要	p.44			
	• 会議体	p.45			
	• 協力組織・協力分野	p.46			
	• 具体的取り組み	p.47			
	• 参考URL	p.48			
6.	小括	p.49			
III.	ASEAN	p.51			
1.	米国	p.51			
	• 概要	p.52			
	• 会議体	p.53			
	• 協力組織・協力分野	p.56			
	• 具体的取り組み	p.59			
	• 参考URL	p.61			
2.	英国	p.62			
	• 概要	p.63			
	• 会議体	p.64			
	• 協力組織・協力分野	p.67			
	• 具体的取り組み	p.71			
	• 参考URL	p.74			
3.	ドイツ	p.75			
	• 概要	p.76			
	• 会議体	p.77			
	• 協力組織・協力分野	p.79			
	• 具体的取り組み	p.82			
	• 参考URL	p.84			
4.	フランス	p.85			
	• 概要	p.86			
	• 会議体	p.87			
	• 協力組織・協力分野	p.89			
	• 具体的取り組み	p.94			
	• 参考URL	p.95			
5.	中国	p.96			
	• 概要	p.97			
	• 会議体	p.98			
	• 協力組織・協力分野	p.100			
	• 具体的取り組み	p.103			
	• 参考URL	p.105			
6.	小括	p.106			
IV.	おわりに	p.108			



I. はじめに

背景・目的・方法

近年の地政学的状況を踏まえつつ、インド・ASEANが欧米主要国や中国と、科学技術イノベーション協力を積極的に進めている。

そこで、インド・ASEANと米国、英国、ドイツ、フランス、中国の主要5か国の科学技術イノベーション協力の状況について、政府レベルの二国間協力を中心に、下記の情報をデスクトップ調査によって俯瞰的かつ網羅的に収集・整理する。

- 具体的な取り組みを決定する会議体、主な合意・議論内容
- 研究、教育、交流など、科学技術イノベーションに関する協力を推進するための組織（拠点、ネットワークなど）とその協力分野
- 特徴的な組織とその狙い、協力状況

* 本報告書は2025年7月までの情報に基づくものである。特に、2025年1月に発足した米国第2次トランプ政権の政策と国際関係が、今後の国際科学技術イノベーション協力を大きく影響する可能性がある。



II. インド 1. 米国

インドは米国と、印米科学技術フォーラム (IUSSTF) を他国に先んじて設立するなど、25年以上にわたり、実効的な科学技術イノベーション協力を推進している。

- インドは米国と、政府レベルでの二国間合意のほか、米国の政府関連機関や大学の研究・教育拠点、企業の事業拠点などを通じて、様々な協力活動を展開している。
- 両国政府が共同出資する独立組織として2000年3月に設立された「印米科学技術フォーラム (IUSSTF)」は、25年以上にわたり、科学技術イノベーション協力を促進するプログラム（科学ネットワーク、イノベーション・起業、研究開発、訪問交流・フェローシップ、戦略的イニシアティブ）を実施している。特に、近年新たに加えられた「戦略的イニシアティブ」プログラムでは、量子技術やAIなど、重要新興技術に関する共同研究開発を推進している。
- 2022年5月に合意された「重要新興技術に関する米印イニシアティブ (iCET)」と連携して、2023年4月、アメリカ大学協会 (AUU) 「米印大学パートナーシップ拡大に関するタスクフォース」が設置され、米印の研究・高等教育の協力拡大策の検討が進められた。その一環として、インド工科大学 (IIT) とパデュー大学とニューヨーク州立大学バッファロー校 (UB) が共同で、量子技術やAIなど、重要新興技術に関する4つのセンターオブエクセレンス (CoE) を設置している。
- インド政府が推進する高等教育の国際化に応じて、イリノイ工科大学が米国大学初のキャンパスを開設し、2026年秋の入学開始を予定している。

印米科学技術協力は、首脳会談での二国間合意に基づいて、戦略的イニシアティブなどを通じて、機動的に推進されている。

クリントン政権／バイデン政権との主な合意 米印首脳会談

印米科学技術フォーラム (IUSSTF)
に関する政府間合意

2000年3月

- 両国政府が共同出資する独立組織。
- 印・科学技術庁 (DST)、米・国務省が主担当。
- 科学ネットワーク、イノベーション・起業、研究開発、訪問交流・フェローシップ、戦略的イニシアティブの5プログラムを実施。
- 年間予算は約200～300万米ドル。

科学技術協力合意

2019年9月
更新

- 2019年から10年間の取り組みについて合意。
- 情報交換、専門家交流、セミナー・会議開催、科学者・技術者育成、共同研究プロジェクト実施、官民パートナーシップ構築、先進的研究施設利用などを推進。

重要新興技術に関する米印イニシアティブ (iCET)

2022年5月

- 印・国家安全保障会議事務局 (NSCS)、米・国家安全保障会議 (NSC) が主導。
- 宇宙、防衛、クリーンエネルギー・重要鉱物、半導体、AI・量子コンピューティング、人的交流などの分野で、関係を強化。
- 戦略的技術パートナーシップ拡大と防衛産業協力促進のための「INDUS-X (印米防衛加速エコシステム)」を発足。

インドは第2次トランプ政権とも、バイデン政権との二国間合意の内容をほぼ継承している。

第2次トランプ政権との主な合意 2025年2月 米印共同首脳声明

米印戦略技術を活用した関係変革
(TRUST)

- iCETと同様、防衛、AI、半導体、量子、バイオテクノロジー、エネルギー、宇宙などの分野における重要新興技術の応用、機密技術の保護を重視。
- 「AIインフラの加速に関する米印ロードマップ」を2025年末までに策定。
- 半導体、重要鉱物、先端材料、医薬品などの信頼性が高く強靱なサプライチェーンを構築。

INDUSイノベーション

- iCETでのINDUS-Xをモデルとして発足。
- 宇宙、エネルギーなどの新興技術に関する産学パートナーシップ拡大と投資促進を図る。

米NSFと印アヌサندان国立研究基金
(ANRF) の新たなパートナーシップ

- 既存の協力関係を基盤に、半導体、コネクテッドカー、機械学習、次世代通信、高度道路交通システム、将来のバイオものづくりの各分野で共同研究を実施。

高等教育機関の連携強化

- 引き続き、ジョイント・デュアルディグリー、提携プログラム、共同CoEの設立、米国教育機関のインドでのオフショアキャンパスの設置などを強化。

IUSSTFのほか、米国の政府関連機関や大学の研究・教育拠点がインドに設置されている。

主な協力組織		場所	協力分野
印米科学技術フォーラム (IUSSTF)		ニューデリー	戦略的イニシアティブ、科学ネットワーク、イノベーションと起業、研究開発、訪問交流・フェローシップ
EducationUSA		チェンナイ、コルカタ、ムンバイ、ハイデラバード、ニューデリー	米国大学・大学院留学
パデュー大学	米印半導体CoE	ハイデラバード	チップ設計・製造、先進パッケージング、半導体材料、組み込みシステム設計
	パデューインド教育エンゲージメントセンター	デリー	AI、データサイエンス、半導体、農業、ビジネスなどのデュアル/ジョイント・ディグリーを提供
ニューヨーク州立大学バッファロー校 (UB)	UBとインド工科大学 (IIT) 4校の共同センターオブエクセレンス (CoE)	デリー、ジョードプル、カンプール、ヴァーラーナシー	量子フォトニクス (IITデリー)、AI・データサイエンス (IITジョードプル)、バイオテクノロジー・バイオマテリアル (IITカンプール)、ナノ材料CoE (IIT (BHU) ヴァーラーナシー)
	UB・アムリタ社会行動科学研究所	アムリタ	特定の経済・社会問題に関連する社会科学・行動科学の分野横断的共同研究
ハーバード大学	ラクシュミ・ミッタル・アンド・ファミリー南アジア研究所	ニューデリー	南アジアの地域研究、学際研究
	T.H.チャン公衆衛生大学院インド研究センター	ムンバイ	公衆衛生
	ハーバードビジネススクールインド研究センター	ムンバイ	南アジアにおけるビジネスのケーススタディ

II. インド 1. 米国：協力組織・協力分野

アメリカ大学協会はインドとの連携拡大のためのタスクフォースを設置している。また、インド研究のための組織を自国に設置している米国大学もある。

主な大学組織	場所	協力分野
ライス・IITK協力センター	カンプール	持続可能なエネルギー、材料、水、代替燃料
IITボンベイ・オハイオ州立フロンティアセンター	ムンバイ、米国	再生可能エネルギー、先進製造業、エレクトロニクス、フォトニクス、新材料、量子情報技術
アメリカ大学協会 (AUU) 米印大学パートナーシップ拡大に関するタスクフォース	米国	印米グローバルチャレンジ研究所の設立、社会課題解決に向けた学生間の研究協力・交流の拡大、インターンシップ・研修機会の拡大など
カリフォルニア大学デービス校 輸送研究所インドZEV研究センター	米国	ZEV移行のための政策、規制、インセンティブ
カリフォルニア大学サンディエゴ校 グローバル政策・戦略スクール21世紀インドセンター	米国	包摂的成長、グローバル競争力、気候変動と持続可能性
カリフォルニア大学サンディエゴ校 タタ遺伝学・社会研究所	米国	蚊媒介性疾患
ジョンズ・ホプキンス大学 グプタ・クリンスキーインド研究所	米国	公衆衛生
カーネギー・メロン大学 バジャージ地域開発ラボ	米国	水管理、代替エネルギー、女性のエンパワーメント、持続可能な農業

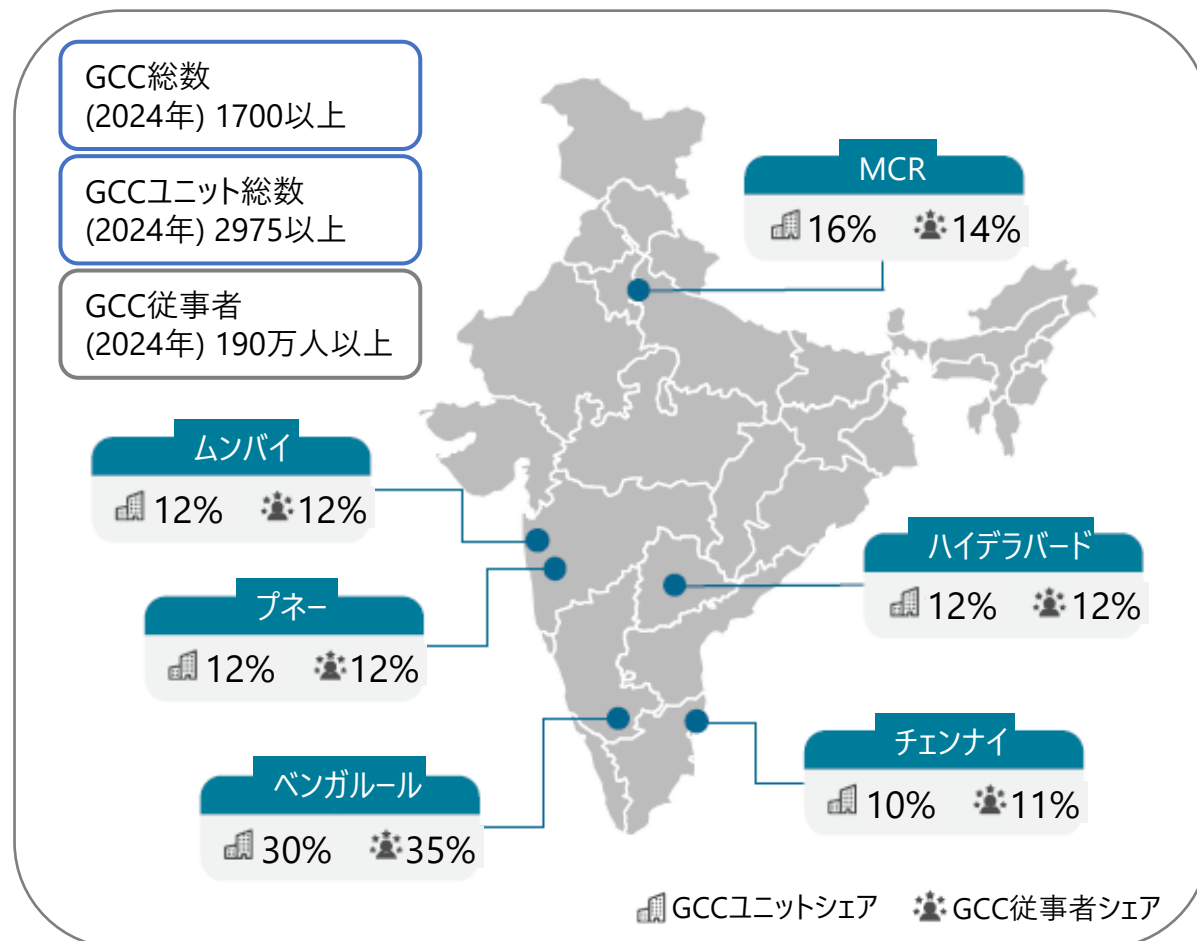
インドのグローバル・ケイパビリティ・センター (GCC) の約67%を、米国企業が設置している。

主なGCC設置企業	場所	重点分野
マイクロソフト	ハイデラバード、ノイダ、ベンガルール	AI、クラウドコンピューティング、ブロックチェーン
アドビ・システムズ	ノイダ、ベンガルール	デジタルメディア制作、クラウドネイティブ・ソフトウェアエンジニアリング、AIを活用したコンテンツ自動化
インテル	ベンガルール	半導体イノベーション、5Gインフラ、AIを活用したエッジコンピューティング、IoT (モノのインターネット) ソリューション
シスコ	ベンガルール	サイバーセキュリティ、通信インフラ、通信プロトコル開発、ネットワークソリューション
アマゾン	ベンガルール、ムンバイ、チェンナイ、デリー、プネー	AI、クラウドインフラ、サイバーセキュリティ、データ分析
ウォルマート	ベンガルール、チェンナイ、グルグラム	予測分析、デジタルコマース、サプライチェーン・物流、パーソナライゼーションエンジン
IBM	ベンガルール、ハイデラバード、プネーなど	AI、ハイブリッドクラウド・インフラストラクチャー、ブロックチェーン、量子コンピューティング
Google	ベンガルール、グルグラム、ハイデラバード、ムンバイ、プネー	クラウドコンピューティング技術、デジタルマーケティングの最適化、消費者向け製品
GEヘルスケア	ベンガルール	AIを活用したヘルスケアアプリケーション、ヘルスケアデータに対するサイバーセキュリティ

インドは、グローバル・ケイパビリティ・センター (GCC) の設置先として注目されている。インドの中央・州政府も、雇用と経済効果の創出のため、積極的に誘致している。

GCCとは

- 企業が国外に設置する、ITサービス、エンジニアリング、研究開発などの機能を担う拠点。
- その半数がインドに立地していると言われている。
- その理由は、低い労働力コスト、豊富なSTEM (科学・技術・工学・数学) 人材など。
- ベンガルールが位置するカルナータカ州政府は2024年11月、インド国内で初のGCCに特化した政策を制定。GCCの誘致による雇用と経済効果の創出を目指す。



Karnataka Impact Report (2024) に基づき作成。

II. インド 1. 米国：具体的取り組み

印米科学技術フォーラム (IUSSTF) では近年、新興技術に関する二国間共同研究や人的交流などを推進している。

米印人工知能 (USIAI) イニシアティブ 2021年～

- AIに関する研究開発協力、人材育成、パートナーシップ強化について二国間で議論するプラットフォーム。
- 米印の産学官有識者が議論するイベントを、毎年数回開催。

米印科学技術基金ファンド (USISTEF) 2000年～

- 社会的インパクトが大きく、2～3年以内に商業化できる可能性が高い、製品や技術の米印共同開発プロジェクトを支援。

通常公募：2000～2019年、計10回実施。

優先分野

- 健康な個人
 - 手頃な価格のバイオメディカル機器、診断・予防・治療手段、食品・栄養製品の開発
- 市民のエンパワーメント
 - 水、農業、金融包摂、教育などに関するICTを含む、デジタル・テクノロジー格差の縮小

プロジェクトあたり支援規模 (第10回)

- 総額2,500万ルピー以下、2～3年

成果

- 支援総数43、商業化技術33以上

特別公募：二国間合意に基づくテーマを設定して実施。

直近2回のテーマ

- 先端材料と重要鉱物による技術ソリューションの変革
 - 2025年「TRUST」に基づき実施。
 - 量子コンピューティング・通信、サイバーセキュリティ・セキュア通信、半導体、AIシステム、バイオものづくり、エネルギーセキュリティ
- 重要新興技術：生活を変革する量子技術・AI
 - 2023年「iCET」に基づき実施。
 - 量子コンピューティング・通信・センシング・暗号・アルゴリズム・イメージング、信頼でき説明可能なAIシステムなど

プロジェクトあたり支援規模

- 総額1,000万ルピー以下、24か月

II. インド 1. 米国：具体的取り組み

インド工科大学 (IIT) は、パデュー大学とニューヨーク州立大学バッファロー校 (UB) と共同でセンターオブエクセレンス (CoE) を設置している。

米印半導体CoE 2024年11月～

- ・ 米印両国政府を支援を受け、パデュー大学とIITハイデラバードが共同で設立。
- ・ 印米ハイインパクト・イノベーション・パートナーシップ (INDUS-CHIPS) を立ち上げ、産学官連携の下、設計・製造・先端のパッケージングなどの半導体技術の重要課題への取り組みを推進。

UBとIITとの4つの共同CoE 2023年10月～

- ・ iCETと連携して、2023年4月に設置されたアメリカ大学協会 (AUU) 米印大学パートナーシップ拡大に関するタスクフォースにおいて、米印の研究・高等教育の協力拡大策を検討。
- ・ その一環として、UBとIITとの共同CoEを設立。

UB-IITデリー量子フォトニクスCoE	UB-IITジョードプルAI・データサイエンスCoE	UB-IITカンプールバイオテクノロジー・バイオマテリアルCoE	UB-IIT (BHU) バラナシナノ材料CoE
<ul style="list-style-type: none"> ・ バイオメディカル分野における量子センシング・イメージング ・ 無機ナノ構造を用いた光子変換科学技術 ・ 薬物乱用監視・防止の基盤となる2光子リソグラフィ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロボット操作のための共同視覚言語グラウンディング ・ コネクテッド自動運転車両によるスマート交通システム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ナノセラノスティクスを用いた経鼻投与による脳への薬剤送達 ・ 揮発性有機化合物を検出する携帯型センサーの開発 ・ バイオフィルムの非侵襲的検出・予防・除去 ・ がん治療用ナノセラノスティクス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボロフェンと粘土の有機無機ハイブリッド、ヘテロ構造を含む2次元ナノ構造 ・ 極限環境用材料や有害重元素除去のための修復を含む、ナノ材料の生合成とバイオプロセス

インド政府の認可を受けて、イリノイ工科大学が米国大学初のキャンパスを開設している。

イリノイ工科大学ムンバイキャンパス

教育課程
学部・大学院

入学開始
2026年秋

専攻
コンピューターサイエンス、工学、ビジネス

参考：インドの外国大学誘致策

- ・ 印・教育省が2020年7月に公表した「国家教育政策 (NEP) 2020」は、高等教育改革の一環として、大学の国際化の方針を示しており、その1つとして、世界トップレベルの外国大学の国内誘致を掲げている。
- ・ キャンパス設置の認可は、国際金融サービスセンター局 (IFSCA)、大学助成委員会 (UGC) が行う。

	IFSCA	UGC
設置場所	グジャラート国際金融テックシティ (GIFTシティ)	インド国内
認可基準	<ul style="list-style-type: none"> 最新のQS世界大学ランキングの総合ランキングまたは分野別ランキングでトップ500以内の外国大学 自国の管轄区域内で高い評価を得ている外国教育機関 (大学を除く) 	<ul style="list-style-type: none"> 世界大学ランキングの総合ランキングまたは分野別ランキングでトップ500以内の外国高等教育機関 特定分野で卓越した専門性を有する外国高等教育機関

II. インド 1. 米国：参考URL

P.6

<https://www.state.gov/india-19-1216>

<https://bidenwhitehouse.archives.gov/briefing-room/statements-releases/2025/01/06/fact-sheet-the-united-states-and-india-committed-to-strengthening-strategic-technology-partnership/>

p.7

<https://www.whitehouse.gov/briefings-statements/2025/02/united-states-india-joint-leaders-statement/>

p.8

<https://educationusa.state.gov/>

<https://www.aau.edu/education-community-impact/international-collaborations/us-india-university-partnerships>

p.9

<https://iitk.ac.in/rice-iitk/>

<https://imr.osu.edu/iit-bombay-ohio-state-frontier-center/about-frontier-center>

<https://www.aau.edu/education-community-impact/international-collaborations/Taskforce-Report-US-India-Partnerships>

<https://www.aau.edu/education-community-impact/international-collaborations/us-india-university-partnerships>

p.10

<https://amchamindia.com/wp-content/uploads/2024/10/Karnataka-Impact-Report-A-Deep-Dive-into-US-headquartered-GCCs-in-the-State-1.pdf>

<https://sourcebae.com/blog/top-19-gcc-companies-shaping-indias-business-future/>

<https://chemindigest.com/indias-strategic-role-in-ge-healthcare-global-operation>

p.11

<https://amchamindia.com/wp-content/uploads/2024/10/Karnataka-Impact-Report-A-Deep-Dive-into-US-headquartered-GCCs-in-the-State-1.pdf>

https://www.nri.com/jp/knowledge/publication/region_202411/files/000030000.pdf

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2024/11/02b3f18971e1357b.html>

p.12

<https://iusstf.org/>

p.13

<https://www.purdue.edu/newsroom/2024/Q4/purdue-announces-growing-partnerships-in-india-at-event-with-sen-young-and-ambassador-garcetti/>

<https://www.buffalo.edu/ubnow/stories/2023/10/indian-university-partnerships.html>

p.14

<https://www.purdue.edu/newsroom/2024/Q4/purdue-announces-growing-partnerships-in-india-at-event-with-sen-young-and-ambassador-garcetti/>

<https://www.buffalo.edu/ubnow/stories/2023/10/indian-university-partnerships.html>



II. インド 2. 英国

インドは英国と、包括的な協力体制の下で研究・教育・イノベーション協力を推進し、充実した人的ネットワークを構築している。

- インドは英国と、政府レベルでの経済・安全保障・教育なども含めた包括的指針に関する合意の下、科学技術イノベーション協力を推進しているほか、英国の政府関連機関や大学組織、企業の事業拠点などを通じて、様々な協力活動を展開している。
- インドの英国高等弁務官・副弁務官事務所を拠点に英国の複数機関が連携して活動している「科学技術ネットワーク (STN)」(2025年2月に「科学イノベーションネットワーク (SIN)」から改称) や、印英間の教育連携強化を図る「英印教育研究イニシアティブ (UKIERI)」を通じて、両国は20年以上にわたり、共同研究や人材育成における協力を促進し、充実した人的ネットワークを構築している。
- 2023年4月、両国政府が締結した研究・イノベーションに関する覚書に基づき「英印ネットゼロイノベーションバーチャルセンター」が設置され、インドの製薬業界の脱炭素化、輸送・エネルギーシステムのイノベーション、グリーン水素のイノベーションに関する取り組みがそれぞれ推進されている。
- インド政府の認可を受けてキャンパスを開設する英国大学が近年増加しており、2025年4月に公表された印英財務担当大臣共同声明には、英国大学のインドへのキャンパス設置を歓迎する旨が明記されている。

印英科学技術協力は、首脳会談、科学イノベーション会議 (SIC) などの二国間合意に基づいて、経済・安全保障・教育なども含めた包括的指針の下、具体化されている。

主な合意

ジョンソン 政権	将来関係の英印ロードマップ2030	2021年5月 印英バーチャルサミット	<ul style="list-style-type: none"> 2030年のビジョンとして、両国国民間の連携強化、貿易・投資・技術協力の活性化、防衛・安全保障協力の強化、気候変動と健康分野でのリーダーシップの確立を掲げて、協力の指針を提示。
スナク 政権	研究・イノベーションに関する覚書	2023年4月 SIC	<ul style="list-style-type: none"> 英印ネットゼロイノベーションバーチャルセンターの設置、英・国際科学パートナーシップ基金 (ISPF) のパートナーへのインドの選定などに合意。
	印英財務担当大臣共同声明	2025年4月 印英経済金融対話	<ul style="list-style-type: none"> 両国の高等教育パートナーシップについても盛り込まれ、英国大学のインドへのキャンパス設置を歓迎すると明記。
スターマー 政権	自由貿易協定	2025年5月 電話首脳会談	<ul style="list-style-type: none"> 英国のEU離脱後の2022年1月に開始し、3年超の交渉を経て合意。 関税削減のほか、電子契約・電子取引、インドの公共調達へのアクセス改善などについても合意。 イノベーションについては、既存の関係に基づく研究開発強化を図るため、イノベーション作業部会を設置することに合意。

II. インド 2. 英国：協力組織・協力分野

両国の研究・教育・イノベーション協力を推進するための政府関連機関や大学組織が、インドに設置されている。

主な協力組織		場所	協力分野
英国科学技術ネットワーク (STN) インド		ニューデリー、ベンガ ルール、ムンバイ	重要新興技術、気候と環境、グローバルヘルス
英印教育研究イニシアティブ (UKIERI)		ニューデリー	研究協力、女性リーダー育成、若手人材育成
英印ネットゼロイノベーションバーチャルセンター		(英国、インド)	インドの製薬業界の脱炭素化、輸送・エネルギーシステムのイノベ ーション、グリーン水素のイノベーション
インペリアル・カレッジ・ロンドン インペリアル・グローバ ル・インド		ベンガルール	科学、教育、イノベーション
コベントリー大学 インド・ハブ		ニューデリー	学術パートナーシップ、教育・学生経験、企業・イノベーション、研究
バーミンガム 大学	持続可能な冷却とコールドチェーンの インドCoE	ハイデラバード	食品・ワクチンの流通における冷却・冷蔵技術
	持続可能な作物収穫後管理・コ ールドチェーンのハリヤナ・英国CoE	パンチクラ	持続可能なコールドチェーンと健全性予測・管理 (PHM)
リーズ大学 持続可能な開発の共同バーチャルCoE		英国、チェンナイ (IITマドラス)	持続可能な開発に関する研究、教育、交流

インド研究のための組織を自国に設置している英国大学もある。

主な大学組織	場所	研究分野
ケンブリッジ・ジャッジ・ビジネス・スクール インド・グローバルビジネスセンター	英国	インドのイノベーション活動
サウザンプトン大学 包摂的成長・持続可能な開発のためのインドセンター	英国	インドの包摂的成長・持続可能な開発
アストン大学 応用研究のためのアストンインドセンター	英国	インドの持続可能な開発（循環型経済、AI/ML、サイバーセキュリティ、災害管理なども含む）
ダラム大学 ダラム・インド法・政策センター	英国	インドの法律

英国大手企業もインドにグローバル・ケイパビリティ・センター (GCC) を設置して、AI・デジタル技術を活用した製品開発、サービス向上、業務改善などを促進している。

主なGCC設置企業	場所	重点分野
EY (アーンスト・アンド・ヤング)	ベンガルール、コーチ、グルグラムなど	サイバーセキュリティ、規制コンプライアンス、インテリジェント・オートメーション (IA) など
スタンダードチャータード	チェンナイ、ベンガルール	コアバンキングプラットフォーム、リアルタイム決裁、ブロックチェーン
アストラゼネカ	チェンナイ	臨床データモデリング、リアルワールドエビデンス (RWE) 分析、デジタル治療
ユニリーバ	ベンガルール	顧客行動やサプライチェーンに関するデータ分析、AI、自動化
HSBC	ハイデラバード、ベンガルール、チェンナイ、コルカタ	AI/MLを活用したインテリジェント分析、データサイエンス
グラクソ・スミスクライン	ベンガルール	ゲノム情報やAI/MLを活用した創薬ターゲット探索

II. インド 2. 英国：具体的取り組み

両国の研究・イノベーション・教育に関する協力ネットワークは20年以上にわたって構築され、発展している。

英国科学技術ネットワーク (STN) インド 2003年4月～

- インドの英国高等弁務官・副弁務官事務所を拠点に、UKRIインド、UKIERI、科学・イノベーション・技術省 (DSIT)、ブリティッシュ・カウンシルと連携して活動。
- 2025年2月、新興技術の重要性が急速に高まっていることなどを背景に、SIN (科学イノベーションネットワーク) からSTNに改称。

英印教育研究イニシアティブ (UKIERI) 2006年4月～

- 2006年4月、印英間の教育連携強化のために開始以降、3フェーズ15年を経て、2022年からフェーズ4を実施。
- フェーズ4では、1) 機関研究・モビリティパートナーシップ、2) 女性のためのリーダーシップ開発、3) 学部・修士学生の研究グラント、を3つの柱に活動を推進。

英印ネットゼロイノベーションバーチャルセンター：3つの柱 2023年4月～

リビングラボ	輸送・エネルギーシステムのイノベーション (ITES)	英印水素ハブ
<ul style="list-style-type: none">• 英・プロセスイノベーションセンターと印・国立化学研究所が共同でプネーに設立。• 温室効果ガス排出削減につながる医薬品製造技術のテストベッドとして、協力を推進。	<ul style="list-style-type: none">• 英・エネルギーシステム・カタパルトと印・IIScを代表機関として、両国の産学官を結集。• パイロットプロジェクトや中小企業・スタートアップ向けプログラムなど、Innovate UKと英・DSITの支援を受けて実施。	<ul style="list-style-type: none">• ITESと共同で、学術的知見と産業界のニーズの橋渡しの場を提供。

英国内での財政難を背景に、英国大学が続々とインドにキャンパスを開設している。

インド政府認可英国大学キャンパス

大学 キャンパス	サウサンプトン大学 デリー	コベントリー大学 GIFTシティ	クイーンズ大学 ベルファスト	ヨーク大学ムンバイ	サリー大学
場所	グルグラム	GIFTシティ	GIFTシティ	ムンバイ	GIFTシティ
教育課程	学部) 会計・金融、 ビジネスマネジメント、 コンピューターサイエ ンス、経済学 大学院) 金融、国 際管理	学部) ビジネス・金 融、国際ビジネス管 理	大学院) 建設・プロ ジェクト管理、ビジネ ス分析、財務分析、 金融	学部・大学院) コン ピューターサイエンス、 ビジネス、経済、クリ エイティブ産業	未定 (ビジネス、国際金 融、コンピューターサイ エンスなどを予定)
入学開始	2025年8月	2026年	2026年1月	2026/27年度	未定
備考	UGC の認可を得て、 キャンパスを設置する 初の外国大学。	IFSCAの認可を得て GIFTシティに設置す る初の英国大学。	IFSCAの認可を得て 設置。	UGC認可申請中。	IFSCA認可申請中。

II. インド 2. 英国：参考URL

P.18

<https://www.gov.uk/government/publications/india-uk-virtual-summit-may-2021-roadmap-2030-for-a-comprehensive-strategic-partnership>

<https://www.gov.uk/government/news/uk-and-india-sign-landmark-research-agreement>

<https://www.gov.uk/government/publications/uk-india-13th-economic-and-financial-dialogue-joint-statement/joint-statement-13th-india-uk-economic-and-financial-dialogue>

<https://www.gov.uk/government/publications/uk-india-trade-deal-conclusion-summary>

p.19

<https://www.gov.uk/government/publications/india-uk-science-and-innovation-network-summary>

<https://www.ukieri.org/>

<https://www.ukibc.com/>

<https://www.imperial.ac.uk/about/global/india/>

<https://www.coventry.ac.uk/the-university/about-coventry-university/global-presence/global-hub/india-hub/>

<https://www.birmingham.ac.uk/research/centres-institutes/sustainable-cooling/india-centre-of-excellence-in-sustainable-cooling-and-cold-chain>

<https://www.birmingham.ac.uk/news/2024/international-experts-and-state-government-of-haryana-develop-centre-of-excellence>

p.20

<https://www.iitmfoundation.org/2024/07/27/university-of-leeds-and-iit-madras-to-launch-joint-centre-of-excellence-in-sustainability>

<https://www.jbs.cam.ac.uk/centres/india-global-business/>

<https://www.southampton.ac.uk/research/institutes-centres/india-centre-for-inclusive-growth-sustainable-development>

<https://www.aston.ac.uk/research/bss/research-centres/aston-india-centre-applied-research>

<https://www.durham.ac.uk/research/institutes-and-centres/dcilp/>

p.21

<https://amchamindia.com/wp-content/uploads/2024/10/Karnataka-Impact-Report-A-Deep-Dive-into-US-headquartered-GCCs-in-the-State-1.pdf>

<https://sourcebae.com/blog/top-19-gcc-companies-shaping-indias-business-future/>

<https://www.pib.gov.in/PressReleasePage.aspx?PRID=2106222>

https://www.fortuneindia.com/long-reads/astrazeneca-bayer-eli-lilly-why-global-pharma-giants-are-betting-big-on-indias-healthcare-revolution/120619#goog_rewarded

p.22

<https://www.uk-cpi.com/news/uk-india-partnership-launches-living-laboratory-to-boost-pharma-industry-decarbonization>

<https://ites.org/>

<https://uk-india-green-hydrogen-hub.b2match.io/>

p.23

<https://www.delhi.southampton.ac.uk/>

<https://www.qub.ac.uk/News/Allnews/2025/QueensUniversityBelfasttolaunchcampusinGIFTCityIndia.html>

<https://www.coventry.ac.uk/news/2025/1billion-milestone-hit-as-coventry-university-to-become-first-english-university-in-indias-gift-city/>

<https://www.york.ac.uk/news-and-events/news/2025/campus/mumbai/>

<https://www.surrey.ac.uk/news/university-surrey-unveils-plans-international-branch-campus-ibc-gift-city-gus-global-services>



II. インド 3. ドイツ

インドはドイツと近年、大学・研究機関間の具体的な科学技術イノベーション協力を推進し、重要新興技術分野を中心に関係強化を図っている。

- インドはドイツと、2011年10月に両国政府によって設立された「印独科学技術センター (IGSTC)」や、2012年10月にドイツ学術交流会 (DAAD) が設置した「ドイツ科学・イノベーションフォーラム (DWIH) ニューデリー」をはじめとする公的機関のほか、大学組織、企業の事業拠点、ドイツ国際協力公社 (GIZ) との共同プロジェクトなどを通じて、様々な協力活動を展開しているほか、近年、政府レベルで大学・研究機関間の研究・教育協力の具体策を打ち出し、実行している。
- IGSTCは、両国から少なくとも1つの研究・学術機関と1つの官民企業が参加する「2+2パートナーシップ」形式で、産業関連の共同研究開発イノベーションプロジェクトを支援しており、2025年公募は、2024年10月の政府間合意に基づき、先端材料をテーマに実施された。
- 2025年1月に両国政府によって設置された「明日のためのドイツ・インド学術ネットワーク (SPARC-GIANT)」は、学術的モビリティの促進、共同研究の推進、学術協力の深化を目的に、新エネルギー材料、スマートシティ、半導体、ヘルスケア、AI、量子コンピューティング、先進製造業など、幅広い重要新興技術分野において、共同プロジェクトを推進している。

印独科学技術協力は、首脳・閣僚による政府間協議 (IGC) での二国間合意に基づいて、研究・教育・人的交流などの具体策を通じて、強化されている。

主な合意 2024年10月 第7回政府間協議 (IGC)

印独イノベーション・技術・パートナーシップ・ロードマップ

- 再生可能エネルギー、スタートアップ、半導体、AI・量子技術、気候リスク・持続可能な資源管理、気候変動への適応、農業生態学の各分野において、両国の官民・研究機関が協力を進めるための指針を提示。

印独科学技術センター (IGSTC) による先端材料に関する2+2公募

- 印・DSTと独・連邦教育研究省 (BMBF) が2011年10月、産業関連の研究協力を促進するために設立したIGSTC (年間予算450～500億ルピー) において、両国の産学による共同プロジェクトを支援。

ドイツ学術交流会 (DAAD) と印DSTとのイノベーション・インキュベーション交流プログラム

- 学術・研究機関の科学的イノベーションとインキュベーション・エコシステムの育成のため、両国の知識と能力の活用を目指す。

明日のためのドイツ・インド学術ネットワーク (SPARC-GIANT)

- IITカラグプル校の学術研究・協力促進スキーム (SPARC) に基づき、DAADと共同で、両国の高等教育・研究機関の協力を強化。
- 独・外務省と印・教育省が出資し、2025年1月に設置。

IITマドラス校とドレスデン工科大学との「トランスキャンパス」パートナーシップ

- マイクロエレクトロニクス・AI、代謝疾患、持続可能性と輸送科学、アントレプレナーシップの4分野において、学際研究、共同教員、博士学生、研究グループ、デュアルディグリープログラムを支援する枠組みを確立。
- IITマドラス校は1959年、当時の西ドイツ政府の援助を受けて設立され、長年にわたりドイツとの協力関係を構築。

マックス・プランク協会 (MPG) とタタ基礎研究所 (TIFR) の協力に関する覚書

- 独・MPGと印・TIFR傘下の国際理論科学センター (ICTS)、国立生物科学センター (NCBS) の間で、生物学、物理学、数学に関する人的交流を促進。

II. インド 3. ドイツ：協力組織・協力分野

両国の科学技術イノベーション協力を担う公的機関やドイツの大学・研究機関の拠点がインドに設置されている。

主な協力組織		場所	協力分野
印独科学技術センター (IGSTC)		ニューデリー、ドイツ	産学共同研究開発、人的交流
ドイツ科学・イノベーションフォーラム (DWIH) ニューデリー		ニューデリー	自然科学・人文科学における基礎研究・応用研究、産学連携、アントレプレナーシップ支援
ドイツ学術交流会 (DAAD)		ニューデリー、ベンガルール、チェンナイ、プネー、ダッカ、コロンボ	奨学金、大学間連携、学術交流
ドイツ国際協力公社 (GIZ)		ニューデリー、デリー、ベンガルール、ムンバイ	再生可能エネルギー・エネルギー効率、環境・気候変動、経済発展・雇用、社会開発
印独商工会議所・印独研修センター		ムンバイ	企業経営人材育成
ゲーテ・インスティトゥート		ベンガルール、チェンナイ、コルカタ、ムンバイ、ニューデリー、プネー	ドイツ語、国際文化交流
フラウンホーファーインド代表部		ベンガルール	技術紹介、パートナーシップ構築
ドイツ研究基金 (DFG)	インド事務所	ニューデリー	研究資金提供の情報提供・支援、機会創出
	独印国際共同大学院プログラム (IRTG) 超分子マトリックスにおける光ルミネセンス	ヴェルツブルク (JMU)、ティルヴァナンプラム (IISc)	発光特性を持つ革新的な超分子機能性材料
印独マックス・プランク・コンピューターサイエンス協力		ニューデリー (IITニューデリー)	アルゴリズム、サイバーフィジカルシステム
フランクフルト金融経営大学 印独ビジネス・エクセレンス・スクール		ドイツ	研究協力、コミュニティ構築、学生交流

II. インド 3. ドイツ：協力組織・協力分野

インドはドイツ国際協力公社 (GIZ) との共同プロジェクトを、環境・エネルギー分野で実施している。

主なGIZプロジェクト	期間	協力組織
アジアにおける持続可能な交通への移行の促進	2019-2025年	独・国際気候イニシアティブ (IKI)、インド政策委員会 (NITI Aayog)
インドにおける人間、動物、環境の健康の保護	2021-2026年	独・BMZ、印・環境・森林・気候変動省 (MoEFCC)
インドにおける気候変動対策の支援	2021-2026年	独・BMZ、独・IKI、印・ MoEFCC
インドにおけるエネルギー貯蔵の枠組み条件の改善	2022-2029年	独・BMZ、印・新・再生可能エネルギー省 (MNRE)
印独グリーン・持続可能な開発パートナーシップの支援	2022-2026年	独・BMZ、印・MoEFCC、印・NITI Aayog
インドの再生可能エネルギーソリューションへの移行促進	2024-2027年	独・BMZ、印・ MNRE
ガンジス川流域の健全化に向けて	2024-2027年	独・BMZ、欧州連合 (EU)、印・中央水委員会
インド農村部における水の安全保障と気候変動適応の拡大	2021-2025年 2025-2028年	独・BMZ、印・水資源省 (MoJS)、印・農村開発省 (MoRD)
インドの排出削減が困難な産業でのグリーン水素の推進	2025-2028年	独・BMZ、印・ MNRE

ドイツ大手企業もインドにグローバル・ケイパビリティ・センター (GCC) を設置し、サービス向上や業務改善のための研究・技術開発を行っている。

主なGCC設置企業	場所	重点分野
ボッシュ	ベンガルール	先進運転支援システム (ADAS)、電動パワートレイン、コネクテッドカーソリューション
シーメンス	ベンガルール、プネー	電気自動車部品、充電インフラ、デジタル化ソリューション
メルセデス・ベンツ	ベンガルール	製品設計・開発、電気・電子工学、コンピュータ支援工学、社内向け支援
コンチネンタル	ベンガルール	タイヤ技術、車両ダイナミクス、電動化
ドイツ銀行	ベンガルール、プネー	クラウド移行、AI/MLを活用した銀行業務DX (デジタルトランスフォーメーション)
SAP	ベンガルール	カスタムAI、マルチエージェントAI
カールツァイス	ベンガルール	クラウドコンピューティング、サイバーセキュリティ、ネットワーク運用、社内医療技術部門向けのソフトウェア開発
ルフトハンザ・システムズ	ベンガルール	航空分野におけるAIファースト・ソリューション、クラウド技術、データドリブン・アプリケーション

政府間協議 (IGC) における合意に基づく公募・支援が迅速に実行されている。

印独科学技術センター (IGSTC) による先端材料に関する2+2公募2025年

目的 両国から少なくとも1つの研究・学術機関と1つの官民企業が参加する「2+2パートナーシップ」形式で、産業関連の共同研究開発イノベーション (R&D&I) プロジェクトを2～4件支援。	テーマ 先端材料 <ul style="list-style-type: none">新エネルギー材料センサー材料と技術	<ul style="list-style-type: none">持続可能で強靱な建物代替エネルギー貯蔵システム
プロジェクトあたり支援規模 ・ 資金) インド：最大3,500万ルピー、ドイツ：最大50万ユーロ ・ 期間) 最長3年（最長2年の追加支援の可能性もあり）	スケジュール ・ 第1段階（提出期限：2025年5月20日）：2～3か月 ・ 第2段階：2～3か月	

明日のためのドイツ・インド学術ネットワーク (SPARC-GIANT) 公募2025-2026年

目的 ・ 学術的モビリティの促進 ・ 共同研究の推進 ・ 学術協力の深化	重点テーマ ・ 新エネルギー材料 ・ センサー材料・技術 ・ エネルギー、持続可能性、気候 ・ スマートシティとモビリティ ・ 半導体と新素材	<ul style="list-style-type: none">ヘルスケアと医療技術スーパーコンピューティング、AI、量子コンピューティング先進製造業とインダストリー4.0
プロジェクトあたり支援規模 ・ 資金) 最大10万ユーロ ・ 期間) 2025年4月1日～2026年3月1日の間		

II. インド 3. ドイツ：参考URL

p.27

<https://www.auswaertiges-amt.de/en/newsroom/news/2681720-2681720>
<https://www.igstc.org/>
<https://dst.gov.in/sites/default/files/DST%20AR%20English%202023-24.pdf>
<https://indianembassyberlin.gov.in/science>
<https://spap.jst.go.jp/resource/university/3030054.html>

p.28

<https://www.daad-indonesia.org/en/>
<https://india.diplo.de/in-en/deu-und-ind/deutsche-institutionen>
<https://www.mpg.de/india>
<https://www.dfg.de/en/about-us/international-cooperation/dfg-abroad/india>
<https://www.dfg.de/en/service/press/press-releases/2024/press-release-no-19>

p.29

<https://india.cnrs.fr/cnrs-collaboration-in-india/>
<https://en.ird.fr/inde/recherche>

p.30

<https://addressadvisors.com/blog/the-role-of-german-gccs-in-powering-indias-automotive-revolution>
<https://mbrdi.co.in/>
https://www.business-standard.com/companies/interviews/deutsche-india-expands-tech-operations-plans-to-hire-in-thousands-123071000508_1.html
https://www.business-standard.com/companies/news/india-hub-driving-global-ai-innovation-new-campus-plans-on-track-sap-labs-124092401214_1.html
<https://www.lhsystems.com/article/we-expand-our-global-presence-new-location-india>

p.31

https://www.igstc.org/home/projects_call_text
<https://www.daad.in/en/2025/01/28/german-indian-academic-network-for-tomorrow-sparc-giant-2025-2026/>
<https://mbrdi.co.in/>



II. インド 4. フランス

インドはフランスと近年、共同研究プロジェクトや長期的ロードマップ下での具体策を打ち出し、両国共通の重要分野における科学技術イノベーション協力強化を図っている。

- インドはフランスと、1987年に両国政府によって設立された「印仏先端研究推進センター (IFCPAR/CEFIPRA)」や、フランス国立科学研究センター (CNRS) の研究協力拠点、フランス開発機構 (IRD) との共同プロジェクト、企業の事業拠点などを通じて、様々な協力活動を展開しているほか、近年、政府レベルで二国間の共同研究プロジェクトの実施、二国間関係のロードマップ「ホライズン2047」の下での具体的取り組みの実行を進めている。
- 2024年1月の政府間合意に基づく「仏印共同研究プロジェクト」は、グリーン水素イノベーションをテーマに第1回公募を実施し、両国の研究ネットワークの強化と発展を促進している。
- IFCPAR/CEFIPRAは長年にわたり、幅広い分野における両国の大学・研究機関間協力、産学パートナーシップの強化を支援しており、近年は、AI、サイバーセキュリティ、スマートモビリティ、デジタルヘルスなど、特定分野における共同研究開発プロジェクトも促進している。
- 「ホライズン2047」で位置付けられている「健康のためのライフサイエンス分野における仏印キャンパス」では、ライフサイエンス・保健医療分野における両国の教育・研究拠点の形成が進められている。

印仏科学技術協力は、科学技術合同委員会 (JCST)、首脳会談での二国間合意に基づいて、共同研究プロジェクトや長期的ロードマップ下での具体策を通じて、強化されている。

主な合意

仏印共同研究プロジェクト		2024年1月 第2回JCST	<ul style="list-style-type: none"> 健康、脱炭素化水素、海洋科学、応用数学の各分野における共同研究の公募について合意。 仏・国立研究機構 (ANR) と印・DSTが合同で運営・管理。
ホライズン2047		2023年7月 仏印首脳会談	<ul style="list-style-type: none"> 仏印戦略的パートナーシップ25周年を記念して、50周年までの二国間関係のロードマップを採択。 1) 安全保障・主権、2) 地球、3) 人々、を3つの柱として、パートナーシップを強化。
ホライズン 2047 1) 安全保障・主権	人工知能 (AI) に関する印仏宣言	2025年2月 仏印首脳会談	<ul style="list-style-type: none"> 安全でオープンかつ安心して信頼できるAIの開発を目指す両国の共通認識と協力方針について合意。
	デジタル科学センターの設立	2025年2月 仏印首脳会談	<ul style="list-style-type: none"> 印・DSTと仏・国立情報学自動制御研究所 (INRIA) が合意。
2) 地球	民生用原子力エネルギー・環境に関する合意	2025年2月 仏印首脳会談	<ul style="list-style-type: none"> 先進・小型モジュール炉やインド原子力エネルギー・パートナーシップ国際センター (GCNTP) に関する協力、環境分野に関する政府間協力について合意。
3) 人々	専門人材育成に関する覚書の早期締結	2025年2月 仏印首脳会談	<ul style="list-style-type: none"> 技能開発、職業教育、訓練に関する協力を強化。
	仏「Station F」での印スタートアップ (SU) 支援	2025年2月 仏印首脳会談	<ul style="list-style-type: none"> 2017年6月パリに開設され、約1,000社が入居する世界最大級のSU支援施設で、印SUを育成。

II. インド 4. フランス：協力組織・協力分野

フランス政府やフランス国立科学研究センター (CNRS) の研究協力拠点がインドに設置されている。

主な協力組織		場所	協力分野
仏ヨーロッパ・外務省 (MEAE) 印仏先端研究推進センター (IFCPAR/CEFIPRA)		ニューデリー	共同研究、産学連携、人的交流
MEAE、高等教育・研究・イノベーション省 (MESRI) 健康のためのライフサイエンス分野における仏印キャンパス		フランス・インド	健康分野においてデュアル・ディグリーを提供する教育課程の構築を目指す
MEAE・フランス国立科学研究センター (CNRS) 共同研究ユニット (UMIFRE)	人文科学センター (CHSデリー)	ニューデリー	政治と社会、リスクと領土動態、グローバリゼーションと規制、経済と開発
	ポンディシェリフランス学院 (IFP)	ポンディシェリ	インド学、生態学、社会科学、測地学
CNRS国際研究ラボ	印仏応用数学センター (IFCAM)	ベンガルール (IIScベンガルール)	応用数学、コンピューターサイエンス、工学
	印仏コンピュータサイエンス研究ラボ (ReLaX)	チェンナイ (チェンナイ数学研究所)	理論コンピュータサイエンスと応用
	生物システムにおける自己組織化と制御：分子から細胞、組織まで (SCAL(E)S)	ベンガルール (国立生命科学研究所)	物質と生物のメカニズム

II. インド 4. フランス：協力組織・協力分野

インドはフランス国立科学研究センター (CNRS) やフランス開発機構 (IRD) と共同プロジェクトも実施している。

主なプロジェクト		期間	協力分野
CNRS国際研究プログラム	印仏水科学セル (CEFIRSE)	1999年-	インドにおける生態農業社会水系
	マイクロアクチュエータ・エネルギー収集デバイス向け先進ポリマーナノ複合材料 (APONAMA)	2022-2026年	圧電エネルギー発電機の開発に適用するポリマーナノ複合材料の開発
	非平衡系における古典・量子ダイナミクス	2024-2028年	非平衡統計物理学、量子多体系におけるダイナミクスなど
CNRS国際研究ネットワーク	小スケールの流体力学 (HYDOROMMBI)	2022-2026年	限定された流体環境におけるソフトマテリアルの制御と操作
	新興感染症と抗生物質耐性 (MIRA)	2023-2027年	病原菌に対する新たな治療法・予防法の発見に向けた基礎・応用研究
フランス開発機構 (IRD)	HiDRATE	2023-2027年	リモートセンシングによる蒸散と蒸発のマッピング
	SPACE4SUST	2022-2026年	水資源管理と衛星観測
	Nutrilift	2021-2024年 2024-2027年	土壌と根の特性評価、土壌内の溶質・水の動態モニタリング
	Global Smog	2022-2025年	大気汚染管理

フランス大手企業がインドに設置するグローバル・ケイパビリティ・センター (GCC) も、AI・デジタル技術を製品・サービスや業務へ活用する拠点として発展している。

主なGCC設置企業	場所	重点分野
エアバス	ベンガルール	飛行物理、機体、システム、飛行試験、推進
ミシュラン	プネー、チェンナイ	AIを活用したタイヤの最適化、設計、製造、使用方法の再構築
シュナイダーエレクトリック	ベンガルール	エネルギー管理、産業オートメーション
キャップジェミニ	ベンガルール、チェンナイ、グルグラム、ハイデラバードなど	生成AI、データ
サフラン	ハイデラバード、ムンバイ、ベンガルール	防衛、宇宙、航空電子工学
アルストム	ベンガルール	AI、ビッグデータ、インテリジェントメンテナンス、LTE、サイバーセキュリティを活用した信号技術
サンゴバン	ムンバイ	ソフトウェアアプリケーション開発・保守サービス、ITインフラストラクチャ監視サービス
サノフィ	ハイデラバード	AIを活用した科学研究、生産性向上、意思決定支援

科学技術合同委員会 (JCST) での合意に基づく公募が迅速に実行されている。

仏印共同研究プロジェクト

第1回公募「持続可能なエネルギーソリューションのためのグリーン水素イノベーション」2025年版

目的

水素分野における仏印研究ネットワークの強化と新たなネットワークの構築

プロジェクトあたり支援規模

- 資金) ANR：100万ユーロ、DST：9,000万ルピー
- 期間) 最長3年

スケジュール

- 公募) 2025年3月6日～5月6日
- 決定) 2025年7月 (2～4件)
- 開始) 2025年9月

分野

- 電気化学的水素製造や燃料電池のイノベーション
 - 電解装置や燃料電池用の希少かつ高価な電気触媒の代替品
 - グリーン水素製造のためのバイオインスパイアード触媒設計
 - 天然酵素による水素生成など
- 水素キャリアと貯蔵に関する研究
 - アンモニアなどの化学的水素キャリア（合成/分解プロセスなどのチェーンの進展）
 - 液体有機水素キャリア (LOHC) のような液体水素キャリア
 - 水素化物のような材料ベースの水素貯蔵

印仏先端研究推進センター (IFCPAR/CEFIPRA) は両国の大学・研究機関間協力、産学パートナーシップの強化を支援している。

印仏先端研究推進センター (IFCPAR/CEFIPRA)

- 1987年設立。印・DSTと仏・MEAEが支援。年間予算約550万ユーロ。
- 共同科学研究プログラム (CSRP)、産学研究開発プログラム (IARDP)、モビリティフェローシップ、セミナー・ワークショップ、テーマを特定したターゲットプログラムなどを通じて二国間協力を強化。

【2024/25共同研究公募概要】

	CSRP	IARDP	DST-INRIA (仏・国立情報学自動制御研究所) ターゲットプログラム
分野	<p>テーマ別公募</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康：ワンヘルスと気候変動、新興・重要病原体の早期検出など 海洋：水中システム、計測機器・ロボット工学など <p>一般公募</p> <p>純粋・応用数学／ライフ・ヘルスサイエンス／計算機科学／純粋・応用化学／地球・惑星科学（農学を含む）／材料科学／エネルギー・環境科学／バイオテクノロジー／水と海洋科学</p>	<ul style="list-style-type: none"> AIと機械学習 再生可能・クリーンエネルギー スマートモビリティ 農業科学技術 持続可能な栄養 ヘルスケア SDGsのための技術 廃棄物管理と循環型経済 	<ul style="list-style-type: none"> AI サイバーセキュリティ 先端コミュニケーションと関連するデジタル技術 デジタルヘルス
プロジェクトあたり支援規模	<ul style="list-style-type: none"> 資金) 総額最大22万ユーロ 期間) 最長3年 	<ul style="list-style-type: none"> 資金) 総額最大22万ユーロ 期間) 最長3年 	<ul style="list-style-type: none"> 資金) 年間各国1-1.5万ユーロ 期間) 最長3年

ライフサイエンス・保健医療分野における両国の教育・研究拠点の形成が進められている。

健康のためのライフサイエンス分野における仏印キャンパス 2022年～

- ・「ホライズン2047」に位置付けられている二国間協力プロジェクト。
- ・保健医療、教育、研究、人的交流における二国間協力を促進し、インド太平洋地域における魅力ある拠点を形成。
- ・2022年公募で4拠点を採択し、2023年～2024年の2年間、MEAE・MESRIが総額90万ユーロを投じて支援。

	統合健康	BIOSANTEXC	ILIADE (印仏における植物とAIによるイノベーション)	CFI (仏印キャンパス：コートダジュール大学)
参画機関	ソルボンヌ大学／IITデリー	高等師範学校4校(ENS)／インド科学教育研究大学(IISR)7校	レユニオン大学、ポワティエ大学、リヨン第1大学、リヨン第2大学／ヴェールール工科大学、JIPMERポンディシェリ、CIMAPラクナウ、NCBSベンガルール	コートダジュール第10大学／IIScベンガルール、IITデリー、アショーク大学
概要	工学、化学、物理学、モデリング、応用数学、バイオインフォマティクス、人文科学、社会科学を応用した基礎生物学の研究を通じて、社会ニーズを満たすために、横断的かつ学際的な仮想キャンパスを創設。	複雑かつ学際的なアプローチ（神経科学、ゲノミクス、生態学、バイオインフォマティクス、スポーツ科学、社会科学）を通じて、世界的に健康に関連する社会的課題（感染症、神経変性疾患、がん）に取り組む。	AIをはじめとする最先端技術を応用し、植物の薬理特性の分析に焦点を当て、薬用植物とその感染症・代謝性疾患・人獣共通感染症への応用に取り組むとともに、健康データのためのAIに関する修士・博士課程を提供。	バイオインフォマティクスとAIの革新的ツールの活用により、分子生物学と治療イノベーションの研究・研修の中核になることを目指す。

II. インド 4. フランス：参考URL

P.35

https://www.mea.gov.in/bilateral-documents.htm?dtl/36806/Horizon_2047_25th_Anniversary_of_the_IndiaFrance_Strategic_Partnership_Towards_A_Century_of_IndiaFrance_Relations
https://www.mea.gov.in/bilateral-documents.htm?dtl/39071/India_France_Joint_Statement_on_the_visit_of_Shri_Narendra_Modi_Honble_Prime_Minister_of_India_to_France_1012_February_2025
https://www.mea.gov.in/bilateral-documents.htm?dtl/39072/List_of_Outcomes_Visit_of_the_Prime_Minister_to_France_1012_February_2025

p.36

<https://www.cefipra.org/>
<https://india.cnrs.fr/cnrs-collaboration-in-india/>
<https://www.ifindia.in/the-franco-indian-campus-in-the-field-of-life-sciences-for-health/>
<https://www.paris-normandie.cnrs.fr/fr/les-laboratoires>

p.37

<https://india.cnrs.fr/cnrs-collaboration-in-india/>

p.38

<https://www.ifcci.org.in/communication/news/n/news/india-gccs-redefining-the-new-era-of-limitless-opportunities.html>
<https://in.ambafrance.org/Explore-Match-French-Fab-India-mission-19805>
<https://www.sanofi.com/assets/countries/india/docs/Media/press-releases/2024/sanofi-announces-expansion-of-its-global-capability-centre-in-hyderabad.pdf>

p.39

<https://anr.fr/en/call-for-proposals-details/call/french-indian-call-for-joint-research-and-innovation-project-proposals-in-green-hydrogen-innovation/>

p.40

<https://www.cefipra.org/>

p.41

<https://www.ifindia.in/the-franco-indian-campus-in-the-field-of-life-sciences-for-health/>
<https://in.ambafrance.org/CNRS-France-and-NCBS-India-sign-a-Letter-of-Intent-to-set-up-an-International>



II. インド 5. 中国

インドは中国と近年、具体的な科学技術イノベーション協力は実施していない。

- インドは中国と2020年以降、科学技術協力に関する政府レベルの会合等を行っていない。2024年10月の国境撤兵合意を経て、まずは経済分野で関係改善が図られ、その進捗に応じて、科学技術協力も徐々に再活性化すると考えられる。ただし、インド、中国を含むBRICS加盟国間では、科学技術イノベーション、産業、ICTなどの各分野における協力について閣僚・政府高官レベルでの協議が実施されている。
- 両国の技術・経済協力推進やインドでの中国語教育を担う非政府・営利組織が両国に設置されているが、中国の大学・研究機関や企業が設置する組織は確認できない。
- 両国の研究開発協力の取り組みは確認できないが、イベントや奨学金制度を通じた人的交流は実施されている。

2020年以降、中印科学技術協力に関する政府レベルの会合等も行われていない。

- 両国の関係は、2024年10月の国境撤兵合意を経て、まずは経済分野で改善が進む見込み。
- その進捗に応じて、科学技術協力も徐々に再活性化するものと思料。
- ただし、BRICS加盟国間では、科学技術イノベーション、産業、ICTなどの各分野における協力について閣僚・政府高官レベルでの協議を実施。

BRICS諸国間での主な会議・合意

第1回科学技術イノベーションに関するBRICS協力会議	2025年4月	<ul style="list-style-type: none">• 技術予測について、印中を含むBRICS11カ国で議論。
第9回BRICS産業大臣会合共同宣言	2025年5月	<ul style="list-style-type: none">• 国連工業開発機関 (UNIDO) と共同設立したBRICS産業能力センター (BCIC) を正式に承認。• 零細・中小企業の発展のため情報交換・連携協力の強化を図る「2025-2030年中小企業行動計画」を採択。• 人材育成政策の指針となる「人工知能時代のデジタル変革」を発表。
BRICS通信大臣会合共同宣言	2025年6月	<ul style="list-style-type: none">• 普遍的かつ有意義な連結性、宇宙と環境の持続可能性、デジタルエコシステムの強化について合意。

非政府・営利組織が両国の技術・経済協力推進やインドでの中国語教育を担っている。
中国の大学・研究機関や企業が設置する組織は確認できない。

主な協力組織	場所	協力分野
印中技術移転センター	ニューデリー、中国	技術・知識移転サービス
印中経済・文化カウンスル	ニューデリー、中国	貿易・経済・文化協力
中印学院	ムンバイ	中国語教育、文化交流
孔子学院	ムンバイ (ムンバイ大学)、ベロール (ベロール工科大学)、ジャランダル (ラブリー・プロフェッショナル大学)、ソーニーパト (O.P. ジンダル・グローバル大学)、コルカタ (中国語学校)、コインバトール (バーラットヒアー大学)、グルグラム (K.R. マンガラム大学)	中国語教育

両国の研究開発協力の取り組みは確認できないが、人的交流は実施されている。

中印科学技術交流セミナー 2024年10月

目的

両国の科学技術イノベーション協力の強化、人的交流・協力の強化、騰衝科学者フォーラムとインドの協力機会の拡大

出席者

- 中国：雲南省科学院副院長、雲南省騰衝科学者フォーラムセンター長、雲南省科学技術情報協会会長ほか
- インド：ムンバイ化学大学教授、印中技術移転センター長、インド科学教育研究大学コルカタ校教授ほか

中国政府奨学金 年1回

区分と条件

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| • 学部) 25歳未満の高校卒業生 | • 一般奨学生) 45歳未満の高校卒業生 |
| • 修士) 35歳未満の学士号取得者 | • シニア学者) 50歳未満で修士号取得者 |
| • 博士) 40歳未満の修士号取得者 | または准教授以上 |

語学力

- 修士・博士) HSK4級
- 上記以外) HSK3級

第3回中印青年対話 2025年2月

目的

両国の若者の相互理解を深め、中印関係の発展を促進

場所

駐インド中国大使館

参加者

両国の若者約100名

II. インド 5. 中国：参考URL

P.45

<https://brics.br/en/news/foresight-in-science-and-technology-guides-first-brics-cooperation-meeting-on-science-technology-and-innovation>

<https://brics.br/en/news/brics-approves-declaration-and-advances-sustainable-industrial-agenda-with-focus-on-technology-and-small-businesses>

<https://brics.br/en/documents/science-technology-and-innovation>

p.46

<https://iceccouncil.org/>

<https://www.indiachinaacademy.com/>

<https://www.hindustantimes.com/india-news/china-confucius-institutes-face-heat-over-propaganda/story-AZCHG9fp66KxXnHCF56JeO.html>

p.47

<http://www.tsfccentre.com/info/1068/2654.htm>

<https://india.lxgz.org.cn/india/tzgg/2024111113555368475/index.html>

http://in.china-embassy.gov.cn/eng/embassy_news/202502/t20250226_11562379.htm



II. インド 6. 小括

インドは欧米5か国と、科学技術イノベーション協力を多様な形で強化し発展させている。

- インドは、米国、英国、ドイツ、フランスとそれぞれ、政府レベルでの二国間合意や、政府関連機関、大学、企業の拠点などを通じて、様々な協力活動を実施している。
- 米国、ドイツ、フランスとはそれぞれ、双方の政府が共同で設立した「印米科学技術フォーラム (IUSSTF)」(2000年設立)、「印独科学技術センター (IGSTC)」(2011年設立)、「印仏先端研究推進センター (IFCPAR/CEFIPRA)」(1987年設立)を通じて、科学技術イノベーション協力を推進している。
- インド政府は、高等教育の国際化のため、世界トップレベルの外国大学の国内誘致を掲げており、米国のイリノイ工科大学、英国のサウサンプトン大学、コベントリー大学などに、キャンパス設置を認可している。特に、英国大学のキャンパス設置については、歓迎する意向を表明している。
- 米国とは、IUSSTFのプログラムなどによる重要新興技術分野での協力、英国とは、研究・教育・イノベーション関連の人的ネットワークの構築を通じて、それぞれ良好な関係をさらに発展させている。
- ドイツ、フランスとは近年それぞれ、政府間合意に基づき、IGSTCやIFCPAR/CEFIPRAなどの既存の枠組みだけでなく新たな枠組みも活用して、インドと共通する重要分野における共同プロジェクトの実施など、協力の強化に取り組んでいる。
- 中国との科学技術イノベーション協力は、2025年8月現在、具体的な活動が認められないが、今後どのように進展するのか、留意が必要である。



III. ASEAN 1. 米国

ASEANは米国と、地域開発プロジェクトなどを通じて科学技術イノベーション協力を推進してきた。ASEAN主要6か国もそれぞれ、特定分野における協力を強化している。

- ASEANは米国と、政府レベルでの合意や米・国際開発庁 (USAID) とのパートナーシップなどを通じて、様々な協力活動を推進してきた。特に、米・ASEANスマートシティパートナーシップでは、米国からUSAIDなどの政府組織や民間部門と様々な協力を実施し、多額の投資を受けてきたほか、メコン・米国パートナーシップにおいても、人材育成や資源管理など、幅広い分野の課題への対応を促進してきた。
- 2025年4月に開催された米・ASEAN合同協力委員会では、スマートシティやメコン地域での開発協力や、人的・文化交流を引き続き強化することが確認されているが、2025年7月、ASEANとの協力において重要な役割を担ってきたUSAIDの廃止が発表された。
- ASEAN主要6か国（シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、ベトナム、フィリピン）も米国とそれぞれ、政府レベルでの二国間合意に基づき、AI・デジタル技術、半導体、農業、環境・エネルギーなど、特定分野における協力を強化している。また、米国の政府関連機関や大学の研究・教育拠点、企業の事業拠点などを通じて、様々な協力活動を展開している。
- シンガポールは米国の大学や企業の拠点などを通じて、様々な協力活動を展開している。また、マレーシアやタイでは、米国企業の事業拠点が増加しつつある。
- USAIDの廃止が、ASEANと米国との協力のあり方にどのような影響を与えるのか、ASEAN加盟国は米国とどのような協力関係を構築していくのか、今後の動向に注目する必要がある。

ASEAN・米科学技術イノベーション協力は、首脳会議や外相会議、合同委員会での合意に基づいて、スマートシティや地域開発、人的交流など、幅広い分野で推進されている。

主な合意

ASEAN・米戦略的パートナーシップ
実施行動計画 (2026～2030年)

2024年7月
ASEAN関連外
相会議

- 共同研究や人材育成などの科学技術協力の推進も含む、2021～2025年の実施行動計画のほぼすべての達成を確認。
- 新たな5年間の計画の策定に合意。

米・ASEAN地域開発協力協定の
2029年までの延長

2024年10月
米・ASEAN首脳
会議

- 科学技術イノベーション (STI) の促進を含む、新たな5年間の **ASEAN-米・国際開発庁 (USAID) パートナーシッププログラム (2024～2029年)** を開始。

ASEAN・米戦略パートナーシップの
強化の再確認

2025年4月
米・ASEAN合同
協力委員会

- 既存の協力を強化することを再確認し、防衛、デジタル経済、AI、零細・中小企業開発、環境・気候変動、教育、公衆衛生、生物多様性、エネルギー、防災、人的交流など、今後の協力の主要分野を特定。
- **ASEANスマートシティ・ネットワーク**への米国のさらなる支援と協力を促進。
- **メコン・米国パートナーシップ**などの開発協力への支援や国務省の協力を通じた人的・文化交流の強化を引き続き実施。

参考：米・国際開発庁 (USAID) の廃止・事業移管

- 2025年7月1日、USAIDの廃止が発表。エイズ対策などの人道支援事業は打ち切られ、トランプ政権が掲げる米国第一の外交方針と合致する事業に限り、国務省へ移管。

ASEAN主要6か国は米国とそれぞれ、AI・デジタル技術、半導体、農業、環境・エネルギーなどに関する協力を推進している。

主な合意

米・シンガポール科学技術協力協定の締結に向けた交渉の継続	2024年8月 第2回米・シンガポール重要新興技術(CET)対話	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術力を強化し、両国とASEAN、インド太平洋地域の平和のための相互利益分野における科学技術協力を促進。 CET6分野 (AI、デジタル経済・データガバナンス、バイオテクノロジー、重要インフラ・技術サプライチェーン、防衛イノベーション、量子情報科学技術) に関する協力も引き続き推進。
第6回マレーシア・米高級実務者対話 共同声明	2024年10月	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙、バイオテクノロジー、農業、中小企業育成、能力構築、医療協力、ワクチン研究協力など、さらなる科学技術協力について検討することを確認。 半導体、デジタル経済、再生可能エネルギー、重要鉱物などの高成長分野における協力を強化することに合意。
米・タイ科学技術協定の10年間延長	2024年8月	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動緩和・適応、クリーンエネルギー、医療研究・公衆衛生など、緊密な科学技術協力を継続することを確認。 知的財産に関する附属書の改訂にも合意。
米・インドネシア首脳会議共同声明	2024年11月	<ul style="list-style-type: none"> AIと持続可能な農業の接点に関する研究協力の促進を確認。 重要鉱物、クリーンエネルギー、温室効果ガス排出量削減、AI・デジタル技術・半導体、女性研究者・若手に焦点を当てたSTEM (科学・技術・工学・数学) 人材育成に関する協力についても合意。

ベトナムとフィリピンは近年、米国との協力を強化している。

主な合意・会合

米・ベトナム包括的戦略パートナーシップ	2023年9月	<ul style="list-style-type: none">半導体サプライチェーン、労働力、人材育成について協力を推進。2024年9月、ITSI (国際技術安全保障・イノベーション)-CHIPS労働力加速プログラムを開始。エレクトロニクス・先進技術推進パートナーシップ開発 (DELTA) ネットワークを立ち上げ、人材育成や政策協調を促進。研究のための科学技術協定を締結し、AI、研究開発とガバナンス、保健・医学、気候科学、バイオテクノロジー、環境保全などの優先分野における共同研究を拡大。
第1回フィリピン・米科学技術合同委員会	2024年5月	<ul style="list-style-type: none">2019年7月の米・フィリピン科学技術協定の調印・更新後、初の委員会を開催。ワンヘルス、農業と開発、産業、エネルギー、新興技術、環境研究、科学技術イノベーション研究とコミュニケーションへの学際的アプローチに関する協力について議論。

ASEANは米国の国務省や農務省、大学と共同で、地域開発や教育・人材育成などの取り組みを推進している。

主な協力組織		場所	協力分野
EducationUSA		タイ、マレーシア、フィリピン、ベトナム、インドネシア	米国大学・大学院留学
国際開発庁 (USAID)	米国・ASEANスマートシティパートナーシップ	ASEAN	都市化に伴う課題への対応、デジタルインフラ整備
	メコン・米国パートナーシップ	カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナム	メコン地域の貧困削減、人的資本開発
	女性のための科学賞	ASEAN	女性科学者の表彰
	東南アジア若手リーダーイニシアティブ	ASEAN	教育・文化交流、地域交流、シード資金提供
	フルブライト米国・ASEAN客員研究員プログラム	ASEAN	地域課題における人的交流・教育連携
	国際ビジターリーダーシッププログラム	ASEAN	ASEAN地方自治体の経済開発・環境、ASEAN事務局の能力開発
農務省	タイ地域農業イノベーションネットワーク	タイ、米国	米、キャッサバ、果物のバリューチェーン構築
国務省・アリゾナ州立大学	米国・ASEAN STI協力プログラム	米国	科学技術イノベーション政策研修、人的交流、ベンチャー創出
	米国・ASEANセンター	米国	経済・学術・文化交流

米国大学3校が研究・教育拠点をシンガポールに設置している。また、7校が東南アジア研究の国立リソースセンターとして米・教育省の支援を受けている。

主な大学組織	場所	対象分野
イェール・NUS (シンガポール国立大学) カレッジ	シンガポール	リベラルアーツ教育 (2025年廃止)
デューク・NUSメディカルスクール	シンガポール	医学
シンガポール・MIT (マサチューセッツ工科大学) 研究・技術アライアンス	シンガポール	抗菌薬耐性
コーネル大学エイナウディ国際学センター 東南アジアプログラム	米国	東南アジア地域の国々、文化、言語に関する知識
北イリノイ大学 東南アジア研究センター	米国	東南アジア11か国に関する外国語・地域研究
カリフォルニア大学バークレー校 東南アジア研究センター	米国	東南アジア諸国と地域全体に関する研究・教育
カリフォルニア大学ロサンゼルス校 東南アジア研究センター	米国	東南アジア諸国と地域全体に関する研究・教育
ハワイ大学マノア校 東南アジア研究センター	米国	東南アジアの文化、言語、社会に関する理解
ワシントン大学 東南アジア・ディアスポラセンター	米国	東南アジアの人々と文化に関する情報
ウイスコンシン大学マディソン校 東南アジア研究センター	米国	東南アジア地域の外国語・地域研究

参考：米・教育省国立リソースセンタープログラム

- ・ 外国語、地域研究、国際研究における米国の能力の強化と維持のため、大学に資金を交付。
- ・ 米・高等教育法のタイトルVIに規定（別称「タイトルVIグラント」）。
- ・ 4年ごとに実施される競争的資金プログラム。直近は2022年に実施、次回は2026年に実施予定。

米国大手企業の東南アジア地域事業拠点がシンガポールだけでなく、マレーシアやタイにも増加しつつある。大学に研究拠点を設置している企業もある。

主な事業拠点設置企業	場所	重点分野
インテル	マレーシア、ベトナム	半導体チップパッケージング、組み立て、試験
アマゾンウェブサービス	シンガポール、マレーシア、タイ	クラウドインフラストラクチャ
コグニザント	マレーシア	品質工学・品質保証、RPA (ロボティック・プロセス・オートメーション)、IoT
Google	シンガポール、マレーシア、タイ	データセンター、クラウドインフラストラクチャ
ハネウェル	シンガポール	AI/MLを活用した脱炭素化のためのエネルギー管理
マイクロソフト エクスペリエンスセンター	シンガポール	データ、AI、IoT を活用したDX (デジタルトランスフォーメーション)
マイクロソフト データセンター	シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア	クラウドコンピューティングサービス
IBM ジャパンイノベーションハブ	フィリピン	ハイブリッドクラウドとAIを活用したDX
IBM 研究イノベーションセンター	シンガポール (NUS)	AIコンピューティング

ASEANスマートシティに関する取り組みが、米国政府全体と連携して推進されている。

米・ASEANスマートシティパートナーシップ (USASCP) 2018年～

- ASEANスマートシティ・ネットワーク (ASCN) 加盟都市と米国官民部門の20以上のプロジェクトに1,900万米ドル以上を投資。
- 米国政府からは、国務省、商務省、運輸省、国立科学財団 (NSF)、貿易開発庁 (USTDA)などが参加。

プログラムの10の柱

ビジネスイノベーションファンド	• ネットゼロ・低炭素ソリューションを提供する6つの企業へのシード資金提供
ビジネスプロモーション・サイバーセキュリティ	• 米国の技術・サービスのASEANスマートシティへの導入支援
循環型廃棄物管理	• 統合都市システム計画、都市廃棄物、建設・解体、電子廃棄物などの政策に関する研修
グリーンビルディングイノベーション	• 建築分野における循環型経済の原則の推進、建築基準・認証の取得に関する教育・支援
循環型起業家精神	• 循環型経済ビジネスモデルの開発のための教育・トレーニング
統合都市サービス	• 都市システム内での資源回収と再利用の促進
エネルギーモデリング	• 地域変動評価モデルを利用した、ASEANパイロット2都市のスマートシティ計画と政策の策定
研究・イノベーション	• 米国の研究プロジェクトにおけるASEAN都市でのパイロット活動と成果の実装・商業化
スマートで持続可能なモビリティ	• 米国都市における都市交通ソリューションのASEAN都市への適用促進
ウォーター・スマート・エンゲージメント	• 水問題における米ASEAN都市間の連携強化

参考：ASEANスマートシティ・ネットワーク (ASCN)

- 2018年、スマートで持続可能な都市開発に取り組むASEAN加盟国共同プラットフォームとして設立。
- 発足時の26加盟都市から、2025年には35都市に拡大。

**ASEANと米国の協力において、米・国際開発庁 (USAID) は重要な役割を担ってきた。
トランプ政権下でも、協力事業の継続を確認している。**

メコン・米国パートナーシップ (MUSP) 2020年～

- ・カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナムのメコン河下流域5か国間の協力関係の構築を支援。
- ・経済連結性、人材育成、国境を越えた水資源・天然資源管理、健康安全保障、サイバーセキュリティなど幅広い分野の課題への対応を促進。

主なプロジェクト

日米メコン電力パートナーシップ (JUMPP)	2019年～	・ 日米協力によるメコン地域の再生可能エネルギーの確実な統合、地域電力取引の機会の拡大、民間投資の機会の拡大
メコン・ワンヘルス・イノベーション・プログラム	2022～2025年	・ ラオス、タイ、ベトナムの公衆衛生安全保障の向上
NASA・環境のための戦略的水文学的農業リモートセンシング (SHARE) プログラム	2020～2025年	・ 水位、土地利用の変化、干ばつ・洪水予測を監視するリモートセンシングツールの展開による国境を越えた水域管理
USAID東南アジアスマートパワープログラム	2021～2026年	・ メコン地域内のエネルギー貿易の拡大、クリーンエネルギー技術導入加速、民間の関与による、電力システムの脱炭素化と強化
USAID SERVIR東南アジア	2023～2028年	・ 水・災害、大気の状態、食糧安全保障、天候・気候、土地被覆・土地利用の変化に対する早期警報提供
NexGen科学者	2021～2025年	・ メコン地域出身の若手専門家・科学者への教育・指導の機会の提供
フルブライト大学ベトナムでのMUSP-公共政策修士課程	2021～2026年	・ ラオスの若手・中堅公務員 (25～35歳) 最大14名を対象とした、フルブライト公共政策・経営大学院での公共政策・政策分析修士号の取得支援

III. ASEAN 1. 米国：参考URL

P.53

<https://asean.org/asean-post-ministerial-conference-with-the-u-s-reviews-progress-of-asean-u-s-comprehensive-strategic-partnership/>
<https://asean.usmission.gov/fact-sheet-delivering-on-our-commitments-12th-u-s-asean-summit-in-vientiane-lao-pdr/>
<https://asean.org/asean-and-united-states-reaffirm-commitment-to-strengthen-comprehensive-strategic-partnership/>
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCB022OK0S5A700C2000000/>

p.54

<https://2021-2025.state.gov/joint-statement-from-the-6th-u-s-singapore-strategic-partnership-dialogue/>
<https://2021-2025.state.gov/joint-statement-on-the-6th-malaysia-u-s-senior-officials-dialogue/>
<https://th.usembassy.gov/extension-of-the-u-s-thailand-science-and-technology-agreement/>
<https://washingtondc.thaiembassy.org/en/content/united-states-and-thailand-extend-science-and-tech>
<https://id.usembassy.gov/joint-statement-from-the-leaders-of-the-united-states-and-the-republic-of-indonesia-elevating-relations-to-a-comprehensive-strategic-partnership/>

p.55

<https://vn.usembassy.gov/fact-sheet-one-year-anniversary-of-the-u-s-vietnam-comprehensive-strategic-partnership/>
<https://www.dost.gov.ph/knowledge-resources/news/84-2024-news/3640-dost-leads-in-advancing-ph-us-collaboration-in-science-and-technology.html>

p.56

<https://educationusa.state.gov/>
<https://goee.asu.edu/stic>
<https://2021-2025.state.gov/establishment-of-a-u-s-asean-center-in-washington-d-c/>
<https://asean.org/asean-united-states-continue-to-further-strengthen-comprehensive-strategic-partnership/>

p.57

<https://www.yale-nus.edu.sg/>
<https://news.nus.edu.sg/two-new-colleges-at-nus-to-deliver-flexible-interdisciplinary-education-more-accessibly-and-at-greater-scale/>
<https://www.duke-nus.edu.sg/>
<https://smart.mit.edu/>
<https://www.unlv.edu/hospitality/Singapore>
<https://www.digipen.edu.sg/>
<https://asia.erau.edu/>
<https://microcampus.arizona.edu/>
<https://www.westernsydneyuni.ac.id/>
<https://sfs.georgetown.edu/academics/centers-institutes/georgetown-sfs-asia-pacific/>
<https://www.fuvusa.org/>
<https://www.ed.gov/grants-and-programs/grants-higher-education/ifle/national-resource-centers>
<https://iris.ed.gov/programs/nrc>

p.58

<https://news.microsoft.com/ja-jp/2019/11/18/191118-experience-center-asia-showcasing-the-new-future-of-work-today/>
<https://asean.newsroom.ibm.com/IBM-and-NUS-Plan-to-Establish-a-Research-and-Innovation-Center>
<https://www.computerweekly.com/news/366616617/AWS-doubles-down-on-ASEAN-with-cloud-and-AI-investments>
<https://aws.amazon.com/jp/about-aws/global-infrastructure/>
<https://news.cognizant.com/Cognizant-opens-new-innovation-hub-in-Malaysia>

p.59

<https://bidenwhitehouse.archives.gov/briefing-room/statements-releases/2024/10/10/fact-sheet-delivering-on-our-commitments-12th-u-s-asean-summit-in-vientiane-lao-pdr/>
<https://www.usascp.org/>
<https://asean.org/our-communities/asean-smart-cities-network/>

p.60

<https://mekonguspartnership.org/>



III. ASEAN 2. 英国

ASEANは英国と、5か年計画に基づき、包括的な科学技術イノベーション協力を推進している。ASEAN主要6か国もそれぞれ、特定分野における協力を強化している。

- ASEANは英国と、政府レベルでのASEAN・英国行動計画の策定や科学技術イノベーション対話の実施などを通じて、持続可能な開発のための短期プロジェクト、AIやエンジニアリングバイオロジーをはじめとする新興技術に関する共同プロジェクトなど、様々な取り組みを促進している。
- ASEAN主要6か国（シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、ベトナム、フィリピン）も英国とそれぞれ、政府レベルでの二国間合意に基づき、AI・デジタル技術、半導体、農業、ヘルスケア、フィンテックなど、特定分野における協力を強化している。また、英国の公的機関や大学の研究・教育拠点、企業の事業拠点などを通じて、様々な協力活動を展開している。
- ASEAN主要6か国には、英国大学の研究・教育協力組織やキャンパスがそれぞれ設置されており、近年は、ベトナムとフィリピンを除く4か国が、英国との大学コンソーシアムを設立し、インドネシアとベトナムが、英国とアントレプレナーシップ教育プログラムを実施するなど、各国とも英国と、高度人材育成に関する協力を推進している。

ASEANは2023年10月、英国と初の科学技術イノベーション対話を開催し、持続可能な開発や新興技術などに関する協力を強化している。

主な合意

ASEAN・英科学技術イノベーション活動の協力強化

2023年10月
第1回ASEAN・英科学技術イノベーション対話

- ASEAN開発のための研究・イノベーション (RIDA)、ASEAN i-Teams、エンジニアリングバイオロジーにおける協力などの取り組み状況を共有。
- ASEANの食料・栄養の安全保障のためのイノベーションに対する英国の追加支援についても確認。

「ASEANにおける持続可能な開発のためのAI」イニシアティブ (AISDA)

2024年6月
第85回ASEAN科学技術イノベーション委員会 (COSTI)

- 2024～2025年に対話パートナーの支援を受けて実施する、ASEANのAIに関する5つの取り組みの1つとして承認。
- 英国の政府開発援助との協力を通じて、東南アジア全域の持続可能な開発のために責任ある包括的なAIを推進。

ASEAN・英対話パートナーシップの強化の再確認

2025年3月
第4回ASEAN・英合同協力委員会

- ASEAN・英国行動計画 (2022～2026年) の完了に向けた確実な実施を確認。
- サイバーセキュリティ、持続可能なインフラ、サプライチェーンの強靱性、DX (デジタルトランスフォーメーション)、電子商取引、AI、フィンテックなどの分野での協力を検討することで合意。
- 気候変動、再生可能エネルギーとエネルギー転換、高齢化社会、教育と人的交流、健康、科学技術イノベーション、零細・中小企業支援、スマートシティなどに関する協力の強化にも合意。

ASEAN主要6か国は英国とそれぞれ、AI・デジタル技術、半導体、農業、ヘルスケアなどに関する協力を推進している。

主な合意

シンガポール・英AI安全性協力に関する覚書	2024年11月	<ul style="list-style-type: none"> 両国のAI安全機関 (AISI) 間で、AI安全性研究、グローバル規範、情報共有、包括的なAIテストに関する協力を強化。
英・マレーシア企業間の半導体提携に関する覚書	2025年3月	<ul style="list-style-type: none"> マレーシア政府が独自のグラフィックス処理装置 (GPU) チップの設計・生産を実現するため、英・アーム・ホールディングスと10年間2億5,000万ドルを投資することに合意。
英・タイ貿易パートナーシップ強化に関する覚書	2024年9月	<ul style="list-style-type: none"> デジタル・技術・サイバー分野における二国間の貿易・投資促進活動の強化・拡大、医薬品分野でのさらなる協力、ゲノミクス分野での協力の機会の模索などについて合意。
英・インドネシアの新たな戦略パートナーシップ	2024年11月	<ul style="list-style-type: none"> 食料安全保障の強化のため、農業生産性、農業技術、森林・土地管理に関する協力、AIと関連するデジタル技術やヘルスケア分野における研究・イノベーションに関する協力、グリーン移行と持続可能なインフラに関する協力などを深化させることに合意。
ベトナム・英投資・技術協力促進	2025年6月 両国大使館共催ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> AI、半導体、グリーンテクノロジー、フィンテック、ヘルスケアなどの分野における協力の可能性について意見交換。

フィリピンは2024年、英国と初の科学技術合同委員会を開催し、具体的な協力を推進している。

主な会合・合意

第1回フィリピン・英科学技術合同委員会	2024年2月	<ul style="list-style-type: none"> 2019年7月の米・フィリピン科学技術協力覚書調印後、初の委員会を開催。 保健、農業・食料安全保障、気候変動、環境などの協力分野を再確認。 研究成果を市場に投入することの重要性を強調し、協力活動を共同で計画することに合意。 合同委員会の隔年開催についても合意。
フィンテック分野における英・フィリピン戦略パートナーシップ	2025年3月 英・東南アジアテックウィーク2025 (マニラ)	<ul style="list-style-type: none"> 英国のAI・データ分野企業12社とフィリピンのデジタル産業団体であるフィンテック・アライアンス・フィリピンが、金融包摂と技術進歩の推進のための協力を促進することに合意。
英・APACテック成長プログラム	2025年3月 英・東南アジアテックウィーク2025 (マニラ)	<ul style="list-style-type: none"> 在マニラ英国大使館とフィリピン最大のコーポレートベンチャーキャピタル (CVC) であるKickstart Venturesが開始。 フィリピン大手財閥であるアヤラ・コーポレーションの投資ファンドを通じて、アジア・太平洋 (APAC) への進出を目指す英国ベンチャー企業とフィリピンVCの投資機会をマッチング。

英国大学3校が研究・教育協力組織をシンガポール、タイ、インドネシアに設置している。

主な協力・大学組織		場所	協力・対象分野
ブリティッシュ・カウンシル		シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、ベトナム、フィリピン、カンボジア	国際科学パートナーシップ基金 (ISPF)、高等教育、人材育成
シンガポール先端研究・教育ケンブリッジセンター (CARES)		シンガポール	問題解決型研究開発 (医療、農業、エネルギー、AI/ML)、アントレプレナーシップ
インペリアル・カレッジ・ロンドン	NTU (南洋理工大学)・インペリアル健康持続可能性・技術ハブ	シンガポール	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスケアのためのAI・ロボティクス、健康な都市・汚染、エネルギー・持続可能性、神経科学、感染症などの共同研究 リー・コン・チアン医学部での研究・教育
	インペリアル・グローバル・シンガポール	シンガポール	研究・イノベーション活動における協力・交流
	シンガポール・グリーンファイナンス・センター	シンガポール (シンガポール経営大学、シンガポール通貨庁)	サステナブルファイナンス
オックスフォード大学	マヒドン・オックスフォード熱帯医学研究ユニット	タイ (マヒドン大学熱帯医学部)	マラリア、母子の健康、医薬品の品質、統計・データ・モデリング、生命倫理など
	オックスフォード大学臨床研究ユニット	インドネシア (インドネシア大学医学部)	感染症に関する生物医学、臨床、疫学研究
	SCG (サイアム・セメント・グループ)・オックスフォード化学CoE	英国	循環型経済、二酸化炭素管理、グリーン水素、低炭素原料、環境持続可能性のための材料

東南アジア研究のための組織を自国に設置している英国大学もある。

主な大学組織	場所	対象分野
オックスフォード大学 東南アジア研究センター	英国	東南アジアに関する学術地域研究
ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス ソウ・シー・ホック東南アジアセンター	英国	東南アジアに関する専門分野・学際的研究
ロンドン大学 東洋アフリカ研究学院 (SOAS) 東南アジア研究グループ	英国	東南アジアに関する学際的研究
リーズ大学 東南アジア地域グループ	英国	東南アジアの言語・地域研究

英国大学がマレーシア、シンガポール、ベトナムにキャンパスを設置している。2025年2月には、英国・豪州初の海外共同キャンパスがインドネシアに開設されている。

大学キャンパス	設置年	教育課程
ニューカッスル大学シンガポール校	2009年	学部) 工学 (シンガポール工科大学とのジョイントプログラム) 大学院) 理学 (修士)、学術 (修士・博士)
グラスゴー大学シンガポール校	2009年	学部) コンピューターサイエンス、工学、看護・ヘルスケア (シンガポール工科大学とのジョイントプログラム) 大学院) コンピューターサイエンス、工学
ノッティンガム大学マレーシア校	2000年	学部・大学院) 人文社会科学、理工学
クアラルンプール大学英・マレーシア学院	2002年	学部・大学院) 電気工学、情報通信工学、バイオメディカル工学
ニューカッスル大学医学部マレーシア校	2011年	学部) 医学・外科学、生物医科学
サウサンプトン大学マレーシア校	2012年	学部・大学院) ビジネス、電気・電子工学、コンピュータサイエンス、機械・航空宇宙工学
ヘリオット・ワット大学マレーシア校	2012年	学部・大学院) 工学・物理化学、エネルギー・地球科学・インフラ・社会学、数学・コンピュータサイエンス、社会科学・ビジネス
レディング大学マレーシア校	2015年	学部・大学院) ビジネス、心理学・臨床言語科学、建築・環境、法学
ディーキン大学ランカスター大学インドネシア校	2025年	学部) ビジネス、コンピュータサイエンス
ブリティッシュ大学ベトナム校	2009年	学部) ビジネス、コンピューティング・先端技術、コミュニケーション・クリエイティブ産業 大学院) ビジネス

英国大手企業も、シンガポールを中心に東南アジア地域の研究開発・ビジネス拠点を設置している。タイの大学にCoEを設置している企業もある。

主な事業拠点設置企業	場所	重点分野
スタンダードチャータード	シンガポール	銀行業務関連技術開発、ベンチャー投資
ユニリーバ	インドネシア	ハラル製品の研究開発
HSBC	シンガポール	富裕層へのサービス、気候変動対策・デジタルイノベーションへの投資
グラクソ・スミスクライン	シンガポール	新規化学物質の開発・スケールアップ
シェル	シンガポール、マレーシア、フィリピン	二酸化炭素回収・貯蔵、廃棄物管理
PwC	シンガポール	企業へのESG (環境・社会・ガバナンス) 導入支援
オックスフォード・ナノポアテクノロジーズ	タイ (マヒドン大学)	健康・医療、農業分野などにおけるゲノミクス研究

ASEANは英国の外務・英連邦・開発省 (FCDO) の支援の下、持続可能な開発に向けた短期プロジェクトを実施している。

ASEAN開発のための研究・イノベーション (RIDA) フェーズ1 2023年

概要 国連の持続可能な開発目標 (SDGs) のためのイノベーションの活用と東南アジアの貧困な弱者の支援のため、14の英国との産学連携プロジェクトを支援。	プロジェクトあたり支援規模 ・ 資金) 1万ポンド以下または1万～10万ユーロ (総額100万ポンド) ・ 期間) 5か月	テーマ ・ 健康 ・ 気候適応と回復力 ・ エネルギー転換 ・ 農業
資金源 ・ 英・外務・英連邦・開発省 (FCDO) 研究エビデンス局	スケジュール ・ 公募) 2023年9月 ・ 開始) 2023年11月	

「ASEANにおける持続可能な開発のためのAI」イニシアティブ (AISDA) によるAI研究ファンド 2024年

目的 持続可能な開発に向けた責任ある安全で包摂的なAIの推進のため、東南アジアの研究機関による3プロジェクトを支援。	プロジェクトあたり支援規模 ・ 資金) 8万ポンド ・ 期間) 6か月	テーマ ・ 気候変動対策 (緩和・適応) ・ 健康 ・ 教育
資金源 ・ 英・外務・英連邦・開発省 (FCDO) 研究エビデンス局	スケジュール ・ 公募) 2024年8月 ・ 開始) 2024年10月	

ASEANは英国とエンジニアリングバイオロジーに関する協力を拡大している。

エンジニアリングバイオロジーに関するASEAN・英地域研修・ワークショップ

	第1回 2024年2月26日～3月1日	第2回 2025年3月18日～20日
場所	在シンガポール英国高等弁務官事務所	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン
参加者	ASEAN加盟10か国、ASEAN事務局、英国専門家	ASEAN加盟10か国、ASEAN事務局、英国専門家
テーマ	<ul style="list-style-type: none">エンジニアリングバイオロジーの基礎政策と規制に関する考慮事項バイオエコノミーの基準と成功要因エンジニアリングバイオロジーが栄養と食料安全保障に与える影響気候変動緩和におけるエンジニアリングバイオロジーの役割	<ul style="list-style-type: none">技術標準とバイオ計測学責任あるイノベーションの枠組み成功のためのエンジニアリングバイオロジーの商業化

ASEAN主要各国は、英国との高等教育やアントレプレナーシップ教育に関する協力も強化している。

大学コンソーシアム

英・インドネシア 学際科学コンソーシアム	タイ・英 世界クラス大学コンソーシアム	英・シンガポール アントレプレナーシップとイノベーションのための大学同盟	英・マレーシア 大学コンソーシアム
2020年設立	2020年設立	2021年設立	2022年設立
<ul style="list-style-type: none"> 科学協力を通じて二国間関係を強化し、地球規模課題の解決策を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 両国の協力の下、世界的な競争力を持てるように大学を改革し、国際的に認知され連携の取れた高等教育を開発するというタイの目標を支援。 	<ul style="list-style-type: none"> 両国の大学間の知識共有と連携、特に、アントレプレナーシップとイノベーションに関する連携と協力を促進。 	<ul style="list-style-type: none"> 二国間の国際的な高等教育を拡大することにより、世界規模での相互理解を促進。

ASEAN i-Teams パイロットプロジェクト 2023～2025年

- 米・MITのi-Teamsプログラムをベースに、英・ケンブリッジ大学で2006年から実施しているi-Teamsプログラムをモデルとした、8週間のプログラムの下、大学発の新技术の商業化の可能性を、市場ニーズ調査を通じて探索。
- 英・外務・英連邦・開発省 (FCDO) が資金を提供し、ベトナム・ハノイ科学技術大学とインドネシア・バンドン工科大学で実施。
- 2024年10月、COSTIと合同で知識共有セッションを開催し、i-TeamsをASEAN加盟国のニーズにどのように適応させるか検討。

ハノイ科学技術大学	バンドン工科大学 (ITB)
<ul style="list-style-type: none"> 2023年7-9月：4プロジェクト 2024年9-10月：2プロジェクト 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年1-3月：3プロジェクト 2024年9-10月：3プロジェクト

III. ASEAN 2. 英国：参考URL

p.64

<https://asean.org/the-first-asean-uk-dialogue-on-science-technology-and-innovation-opens/>
<https://asean.org/joint-media-statement-of-the-20th-asean-ministerial-meeting-on-science-technology-and-innovation-ammsti-20/>
<https://www.khmertimeskh.com/501521414/pioneering-steps-asean-adopts-initiatives-to-keep-ai-in-check/>
<https://asean.org/asean-and-uk-reaffirm-commitment-to-strengthening-partnership/>

p.65

<https://www.mddi.gov.sg/newsroom/new-singapore-uk-agreement-to-strengthen-global-ai-safety-governance>
<https://www.gov.uk/government/news/minister-wests-visit-reinforces-shared-commitment-to-secure-and-resilient-growth>
<https://www.reuters.com/markets/asia/malaysia-minister-says-pay-arm-holdings-250-million-chips-design-blueprints-2025-03-05/>
<https://www.gov.uk/government/publications/uk-thailand-enhanced-trade-partnership>
<https://www.gov.uk/government/news/joint-statement-on-a-new-strategic-partnership-between-the-republic-of-indonesia-and-the-united-kingdom-21-november-2024>
<https://www.gov.uk/government/news/uk-and-indonesia-build-on-solid-foundations-with-new-infrastructure-initiative>
<https://en.vietnamplus.vn/ample-room-remains-for-vietnam-uk-trade-technology-cooperation-post320790.vnp>

p.66

<https://www.gov.uk/government/news/uk-and-ph-hold-inaugural-meeting-on-science-and-technology>
<https://www.gov.uk/government/news/uk-southeast-asia-tech-week-2025-in-manila>

p.67

<https://opportunities-insight.britishcouncil.org/short-articles/opportunities/ispf-research-collaboration-grants-2025>
<https://www.cares.cam.ac.uk/>
<https://www.ntu.edu.sg/medicine>
<https://www.imperial.ac.uk/nanyang-technological-university-imperial-hub/>
<https://www.singaporegreenfinance.com/>
<https://scgcoe.mpls.ox.ac.uk/>

p.68

<https://www.tropmedres.ac/>
<https://www.tropicalmedicine.ox.ac.uk/research/oucru-indonesia-oucru-network>
<https://scgcoe.mpls.ox.ac.uk/>
<https://www.sasc.ox.ac.uk/>
<https://www.lse.ac.uk/SEAC>
<https://www.soas.ac.uk/research/south-east-asia-research>
<https://southeastasia.leeds.ac.uk/>

p.69

<https://www.ncl.ac.uk/singapore/>
<https://www.gla.ac.uk/study/singapore/>
<https://www.nottingham.edu.my/index.aspx>
<https://www.unikl.edu.my/institutes/bmi/>
<https://www.ncl.ac.uk/numed/>
<https://www.southamptonmalaysia.edu.my/>
<https://www.hw.ac.uk/malaysia/>
<https://www.reading.edu.my/>
<https://www.dli.ac.id/>
<https://www.buv.edu.vn/en/>

p.70

<https://www.sc.com/sg/about-us/>
<https://salaamgateway.com/story/unilever-opens-halal-research-centre-in-indonesia-as-global-reference-for-muslim-markets>
<https://www.business.hsbc.com.sg/en-sg/campaigns/china-sg-corridor/why-hsbc>
<https://www.gsk.com/en-gb/locations/singapore/>
<https://www.edb.gov.sg/en/business-insights/insights/singapore-partners-exxonmobil-shell-consortium-to-study-cross-border-carbon-capture-and-storage.html>
<https://asian-power.com/co-written-partner/event-news/shell-singapore-and-shell-company-thailand-bag-multiple-awards-asian-oil-gas-awards-2024>
<https://nanoporetech.com/news/oxford-nanopore-technologies-and-mahidol-university-launch-first-centre-of-excellence-in-southeast-asia>

p.71

<https://www.sc.com/sg/about-us/>

p.72

<https://asean.org/asean-uk-holds-regional-training-and-workshop-on-engineering-biology/>
<https://asean.org/asean-uk-workshop-paves-path-for-engineering-biology-innovation/>
<https://www.ucl.ac.uk/engineering/news/2025/mar/ucl-east-hosts-asean-uk-regional-training-and-workshop-engineering-biology>
https://www.instagram.com/ukinmalaysia/p/C-4RR3ovXKz/?hl=pa&img_index=1

p.73

<https://www.universityworldnews.com/post.php?story=2025040208422990>
<https://iteamsonline.org/asean-i-teams/>
<https://www.gov.uk/government/news/uk-and-asean-unite-to-share-expertise-on-tech-commercialisation-through-asean-i-teams-programme>



III. ASEAN 3. ドイツ

ASEANはドイツと、中小企業振興・人材育成も含めた幅広い科学技術イノベーション協力を推進している。ASEAN主要6か国もそれぞれ、特定分野における協力を強化している。

- ASEANはドイツと、政府レベルでの実務協力分野の選定を通じて、情報通信技術、サイバーセキュリティ、気候・環境・エネルギーのほか、零細・中小企業振興、技術職業教育訓練 (TVET) など、幅広い協力関係を促進している。
- ASEAN主要6か国（シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、ベトナム、フィリピン）もドイツとそれぞれ、エネルギー、デジタル技術、農業、TVETなど、特定分野における協力を強化している。また、シンガポール、インドネシアを中心に、ドイツの公的機関や大学の研究・教育拠点、ドイツ国際協力公社 (GIZ) との共同プロジェクト、企業の事業拠点などを通じて、様々な協力活動を展開している。
- シンガポール、ベトナムはドイツとの共同研究プログラムを実施しており、マレーシア、インドネシア、フィリピンは、EUのプログラムを通じて、ドイツをはじめとする複数のEU加盟国と、高等教育機関間の学術連携に取り組んでいる。
- インドネシア、フィリピンを除く4カ国には、工学教育を主とするドイツの大学・教育機関が設置されているほか、シンガポール、マレーシア、ベトナムはそれぞれ、ドイツとの官民連携による技術人材育成を推進している。

ASEANはドイツとASEAN・独開発パートナーシップ委員会 (AG-DPC) での合意に基づいて、科学技術イノベーション協力を推進している。EUとのプログラム実施もドイツと協力している。

主な合意

ASEAN・独開発パートナーシップ： 実務協力分野 (2023～2027年)

2022年11月
第6回ASEAN・独
開発パートナーシップ
委員会 (AG-DPC)

- ASEAN・独実務協力分野 (2018～2022年) の成功を踏まえて、新たな計画を採択。
- 情報通信技術などの科学技術イノベーションのほか、零細・中小企業振興、サイバーセキュリティ、人的交流、技術職業教育訓練 (TVET)、気候・環境・エネルギーなどに関する協力を強化。

EU・ASEAN持続可能な連結性 パッケージ高等教育プログラム (SCOPE-HE) の実施

2024年7月

- ASEAN内とEU・ASEAN間の教育、研究、大学ネットワーク、TVETにおける人的交流を強化。
- 欧州連合 (EU) による資金提供の下、2024～2028年の4年間、ドイツ学術交流会 (DAAD) がオランダ高等教育国際協力機構 (Nuffic) に協力して、プログラムを実施。
- 活動の3つの柱のうち、学術的モビリティと職業ネットワーク構築をNufficが、大学ネットワーク構築をDAADがそれぞれ担当。

ASEAN主要6カ国はドイツとそれぞれ、エネルギー、デジタル技術、農業などに関する協力を推進している。技術職業教育訓練 (TVET) に関する協力も強化している。

主な合意

シンガポール・独戦略的パートナーシップ	2022年11月 シンガポール・独首脳会談	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二国間関係を戦略的パートナーシップへ格上げ。 ・ 研究・科学技術・イノベーションについては、学術交流と共同研究を促進し、再生可能エネルギーやデジタル化などに関する取り組みやスタートアップ・エコシステムの構築を推進。
マレーシアの気候クラブへの参加	2024年3月 独・マレーシア首脳会談	<ul style="list-style-type: none"> ・ マレーシアの気候変動対策の取り組み、技術職業教育訓練 (TVET) ・高等教育、再生可能エネルギー、零細・中小企業支援に関する協力を強化。
タイ・独戦略的パートナーシップへの格上げのためのロードマップ	2024年3月 独・タイ首脳会談	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合同経済委員会 (JEC) や二国間政治協議を通じて、ロードマップについてさらに議論していくことで合意。 ・ クリーンエネルギー、EV・バッテリー産業、持続可能な農業、インフラ開発、技術・知識移転などの協力を強化。
インドネシアの公正エネルギー移行パートナーシップ (JETP) への貢献	2025年2月 独・インドネシア高級実務者会合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米国のJETP離脱後も、ドイツが日本と共同リーダーを務め、石炭に依存するインドネシアのエネルギー移行を引き続き支援。
農業開発と職業訓練の促進のためのベトナム・独協力イニシアティブ	2025年5月 独・ベトナム閣僚級会合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水産・畜産・林業分野における機械化協力、生産チェーン全体を通じた食品安全性の確保、TVET能力の向上、ベトナムにおける機械化サービスセンターの整備について合意。
フィリピン建設業者協会とNRW州連邦職業訓練研究所の覚書	2024年3月 第2回フィリピン・独合同経済委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィリピンにおけるドイツとの二国間TVET制度の推進、フィリピンへのドイツの技術イノベーションの導入、視察研修を通じたベストプラクティスの交換を促進。

ドイツの科学技術イノベーション協力を担う公的機関や大学・研究機関の拠点が、ASEAN 各国に設置されている。

主な協力組織		場所	協力分野
ドイツ学術交流会 (DAAD)		シンガポール、インドネシア、タイ、ベトナム	奨学金、大学間連携、学術交流
ドイツ国際協力公社 (GIZ)		インドネシア	持続可能なインフラ、社会開発、環境・気候変動、経済発展・雇用
ゲーテ・インスティトゥート		シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、ベトナム、フィリピン、ミャンマー	ドイツ語、国際文化交流
フラウンホーファー・シンガポール・リサーチ		シンガポール	産業向け受託研究・技術開発、研修・教育
フラウンホーファー・シンガポール・研究センター (FSR@NTU)		シンガポール (NTU)	NTUとの共同研究・技術開発、教育協力
ミュンヘン工科大学 (TUM)	TUMCREATE	シンガポール	水、代替タンパク質、カーボンニュートラル、細胞生物学、眼科、計算機モデリング、エネルギー、交通
	TUMアジア	シンガポール (NTU & SIT)	学部 (シンガポール工科大学とのジョイントディグリーを含む)・大学院) 工学教育
ドイツ・マレーシア学院 (GMI)		マレーシア	ディプロマ教育 (電気工学、機械工学、コンピュータ・情報)、職業訓練
タイ・ドイツ学院 (TGI)		タイ	製造技術に関する研修、試験・認証、コンサルティング
ベトナム・ドイツ大学		ベトナム	学部・大学院) 電気・コンピュータ工学、機械工学、都市工学、財務・会計、ビジネスなど
ベトナム・ドイツ医療研究センター		ベトナム	感染症に関する基礎・応用臨床研究、教育・研修

ASEAN各国はドイツ国際協力公社 (GIZ) との共同プロジェクトを、環境・エネルギー分野で実施している。

主なプロジェクト	期間	協力組織
アジアにおける持続可能な交通への移行の促進	2019-2025年	独・国際気候イニシアティブ (IKI)、ベトナム・運輸省科学技術政策局 (DoSTE)
東南アジアのエネルギー転換に関する専門知識と対話の促進	2020-2027年	独・連邦経済・気候対策省 (BMWK)、タイ・エネルギー省エネルギー政策計画局、インドネシア・国家開発計画省、ベトナム・国会科学技術環境委員会、フィリピン・エネルギー省
東南アジアにおける野心的な気候変動対策の推進	2022-2026年	独・連邦経済協力開発省 (BMZ)、欧州連合 (EU)、ASEAN事務局
東南アジアにおける環境に配慮した投資の促進	2022-2026年	独・BMZ、ASEAN事務局
メコン河委員会による水管理の改善支援	2025-2027年	独・BMZ、メコン河委員会
東南アジアにおける責任ある漁業管理のための国境を越えた協力の推進	2025-2027年	独・BMZ、ASEAN・漁業に関する作業部会 (ASWGFi)、ASEAN・東南アジア漁業開発センター (SEAGDEC)、タイ・水産省、インドネシア・海洋水産省 (MMAF)、フィリピン・水産水資源局 (BEAR)

ドイツ大手企業もシンガポール、マレーシア、タイに拠点を設置し、サービス向上や業務改善のための研究開発のほか、技術支援、人材育成などを行っている。

主な事業拠点設置企業	場所	重点分野
ボッシュ	シンガポール	空調制御システム、インテリジェンスセンサーシステム、AIoT
シーメンス	シンガポール、マレーシア	建物の持続可能性、空調制御システム、防災、DX人材育成
メルセデス・ベンツ	マレーシア	倉庫管理技術、物流・サプライチェーン管理研修
コンチネンタル	シンガポール	自動運転技術、電気自動車技術、コネクテッド技術
SAP	シンガポール	AI/ML、デジタルサプライチェーン、エクスペリエンスマネジメント
カールツァイス	タイ、シンガポール	計測サービス、研修、高等教育機関との連携

III. ASEAN 3. ドイツ：具体的取り組み

シンガポール、ベトナムはドイツと共同研究プロジェクトを推進している。また、マレーシア、インドネシア、フィリピンはドイツやその他のEU加盟国と、大学ネットワーク構築を進めている。

ドイツ研究基金 (DFG) との共同研究公募

機関	シンガポール：A*STAR	ベトナム：科学技術開発財団 (NAFOSTED)
テーマ	持続可能な化学 原材料代替、資源保全化学と持続可能な触媒、持続可能な計算・データ駆動化学など	全分野
プロジェクトあたり支援規模	<ul style="list-style-type: none">資金) 最大30万シンガポールドル (A*STAR) * DFGの資金規模は未公表期間) 最長3年	<ul style="list-style-type: none">資金) 最大200万ベトナムドン (NAFOSTED) * DFGの資金規模は未公表期間) 最長3年
スケジュール	<ul style="list-style-type: none">公募) 2025年3月17日～6月18日決定) 2026年2月	<ul style="list-style-type: none">公募) 2024年9月18日～12月18日決定) 審査後申請者に書面で通知

SCOPE-HE ASEAN-EU高等教育機関クラスターへの学術的連携促進助成金

- 120件の提案から採択された3つのクラスターが、グリーン移行、DX (デジタルトランスフォーメーション)、ブルーエコノミーに焦点を当てた地域間の学術連携活動を、2025年1月～2027年12月の間、最大54.5万ユーロの支援を受けて推進。

	GreenTrans-EDU	DIGIHAZ	STABLE
参画機関	6大学：独、仏、インドネシア、フィリピン	6機関：スペイン、ギリシャ、マレーシア、フィリピン	5機関：インドネシア、独、マレーシア、オランダ
テーマ	持続可能性に関する研究と教育	自然災害リスクへの対処	海洋科学教育の現代化とブルーエコノミーの推進

シンガポール、マレーシア、ベトナムはドイツとの官民連携により、技術人材育成を戦略的に推進している。

ASEAN3か国とドイツの官民連携による技術人材育成協定・覚書

シンガポール・ニアアンポリテクニク (NP) とカールツァイスの戦略的パートナーシップ	マレーシア生産性公社 (MPC) とシーメンスの覚書	ベトナム・Becamex IDC (ビンズオン省工業投資開発公社) とフラウンホーファー ENAS (エレクトロ・ナノシステム研究所) の協力協定
2024年9月	2025年2月	2025年5月
<ul style="list-style-type: none"> シンガポールで深刻化する近視に関する問題に対応するため、学生への教育を強化。 学生に対して、検眼カリキュラムを通じて、早期発見、予防、診断に必要なスキルの習得を促進するとともに、インターンシップの機会も提供。 NP検眼センター内に、共同管理施設を導入し、学生に対して、他の眼科専門家と連携して、近視前症や近視進行を管理するための実践的なスキルと知識の習得を支援。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年以内に1万人の産業人材育成を目指すことに合意。 新設された「Siemens Xceleratorエクスペリエンスセンター」において、現実世界とデジタル世界を融合させ、デジタルツイン、AI、クラウドコンピューティングといった先進技術を活用し、産業人材のスキルアップ、持続可能な労働力育成を支援。 主要産業部門へのDX導入により、中小企業の生産性向上、労働者の賃金上昇など、マレーシアの産業変革と経済成長に貢献。 	<ul style="list-style-type: none"> ベトナムの半導体産業の重要な拠点となることが見込まれるビンズオン省に、マイクロエレクトロニクスとナノテクノロジーに関する共同研究開発センターを設立することに合意。 産学共同研究ネットワークを構築し、チップ設計、ウエハー、パッケージング技術、ハイテク産業向けの高性能マイクロエレクトロニクスソリューションなど、新たな半導体技術の開発を促進。 若手人材の育成も協力して推進。

III. ASEAN 3. ドイツ：参考URL

p.77

<https://asean.org/wp-content/uploads/2025/02/Overview-ASEAN-Germany-Development-Partnership-as-of-13-February-2025.pdf>
<https://asean.org/asean-germany-renew-commitment-to-forge-closer-ties/>
<https://asean.org/wp-content/uploads/2022/11/ASEAN-Germany-Development-Partnership-PCA-2023-2027-Adopted.pdf>
<https://asean.org/secretary-general-of-asean-and-eu-ambassador-to-asean-launch-the-scope-he-programme-to-strengthen-educational-ties/>
<https://euinasean.eu/scope-he/>

p.78

<https://www.mfa.gov.sg/Newsroom/Press-Statements-Transcripts-and-Photos/2024/11/20241118-sg-Germany>
<https://www.aseanbriefing.com/news/singapore-and-germany-strengthen-relations-what-the-strategic-partnership-means/>
<https://themalaysianreserve.com/2024/03/23/anwars-germany-visit-achieves-objectives-strengthens-ties-analyst/>
<https://thailand.prd.go.th/en/content/category/detail/id/49/iid/269535>
<https://www.khaosodenglish.com/politics/2024/03/15/srettha-visit-paves-the-way-to-a-thai-german-strategic-partnership/>
<https://jakarta.diplo.de/id-en/jetp-2702134>
https://coal.jogmec.go.jp/info/docs/250314_5.html
<https://en.mae.gov.vn/4-vietnam--germany-cooperative-initiatives-in-agriculture-and-environment-8876.htm>
<https://www.dti.gov.ph/archives/news-archives/philippines-germany-celebrate-record-investments-bilateral-cooperation-2nd-joint-economic-commission-meeting/>

p.79

<https://www.daad.de/en/the-daad/map/daad-network/>
<https://www.giz.de/en/worldwide/10107.html>
<https://www.goethe.de/en/index.html>
<https://www.fraunhofer.sg/en/about/Collaborative-Research-Centres/Fraunhofer-research-centre-ntu.html>
<https://tum-asia.edu.sg/>
<https://www.gmi.edu.my/>
<https://vgu.edu.vn/>
<https://www.vgcare.org/>

p.80

<https://www.giz.de/en/worldwide/10107.html>

p.81

<https://www.bosch.com/research/about-bosch-research/research-locations/>
<https://www.siemens.com/sg/en/products/buildingtechnologies/references/siemens-centre-singapore.html>
<https://www.siemens.com/my/en/products/automation/dex.html>
<https://malaysia.ahk.de/en/information-hub-post/newsroom/mercedes-benz-strengthens-asia-pacific-operations-with-new-logistics-hub-in-Malaysia>
<https://www.continental.com/en/press/press-releases/cube-singapore/>
<https://www.continental.com/en/press/press-releases/2018-06-06-singapore/>
https://news.sap.com/sea/2022/03/sap-launches-digital-innovation-hub-to-spearhead-next-generation-engineering-and-rd-for-digital-future/?utm_source=chatgpt.com
<https://news.sap.com/sea/2022/02/sap-qualtrics-and-the-singapore-economic-development-board-commits-s14-1-million-to-establish-singapore-as-regional-hub-for-experience-management-innovation/>
<https://www.zeiss.com.sg/metrology/services/zeiss-academy-metrology/zeiss-academic-program.html>
<https://www.zeiss.com.sg/corporate/news/quality-excellence-center-opening.html>

p.82

<https://www.a-star.edu.sg/Research/funding-opportunities/2025-astar---dfg-joint-grant-call-on-sustainable-chemistry>
<https://www.dfg.de/en/about-us/international-cooperation/news/reports/2025/250604-astar>
<https://hcmut.edu.vn/news-en/item/16065>
<https://www.dfg.de/en/about-us/international-cooperation/news/reports/2024/nafosted-2024-2025>
<https://www.nuffic.nl/en/scope-he>
<https://www.daad-indonesia.org/en/2024/08/21/grants-for-asean-eu-higher-education-institution-clusters-fostering-academic-connectivity/>
<https://asean.org/european-union-strengthens-eu-asean-research-collaboration-with-scope-he-academic-connectivity-grants-three-university-clusters-selected-to-drive-research-and-innovation-across-both-regions/>

p.83

<https://www.np.edu.sg/docs/default-source/np-articles/media-releases/hs-x-carl-zeiss-media-release.pdf>
<https://press.siemens.com/my/en/pressrelease/mpc-siemens-tech-talent-collaboration-boost-productivity-target-upskill-10000>
https://www.enas.fraunhofer.de/en/news_events/news/20250526_becamex.html



III. ASEAN 4. フランス

ASEANはフランスと基金を設立し、幅広い科学技術イノベーション協力を推進している。
ASEAN主要6か国もそれぞれ、特定分野における協力を強化している。

- ASEANはフランスと、政府レベルでの実務協力分野の選定を通じて、気候変動、生物多様性のほか、共同研究、大学間協力、人的交流など、幅広い協力関係を促進している。2024年9月、ASEAN・仏基金を設立し、実務協力分野における協力の強化に取り組んでいる。
- ASEAN主要6か国（シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、ベトナム、フィリピン）もフランスとそれぞれ、AI・デジタル技術、エネルギー、農業、材料科学など、特定分野における協力を強化している。また、シンガポール、タイを中心に、フランス政府やフランス国立科学研究センター (CNRS) の研究協力拠点、フランス開発機構 (IRD) との共同プロジェクト、企業の事業拠点などを通じて、様々な協力活動を展開している。
- 2025年5月、シンガポールはフランスとAI、量子、ロボティクスに関する協力を合意し、それぞれ共同プロジェクトを推進している。

ASEANは2020年9月以降、フランスとASEAN・仏開発パートナーシップ委員会 (AF-DPC) での合意に基づいて、実践的な科学技術イノベーション協力を推進している。

主な合意

ASEAN・仏開発パートナーシップ： 実務協力分野 (2022～2026年)

2022年5月
第2回ASEAN・仏
開発パートナーシップ
委員会 (AF-DPC)

- 気候変動、生物多様性、グローバルヘルス、教育など、互恵的協力のための指針を提示。
- 共同研究や分野横断的な開発を通じた科学技術イノベーション協力、ASEAN・仏の大学間協力や人的交流も促進。

ASEAN大気質改善プログラム (AQIP)

2023年11月
第3回AF-DPC

- 大気汚染管理に関する地域調査とガイドラインの策定、データ管理システムの構築など、ASEAN加盟国における大気質改善のための公共政策の策定を支援。

ASEAN・仏基金によるASEANジュニアフェローシッププログラムの支援

2024年11月
第4回AF-DPC

- ASEAN事務局が実施する、ASEANの若手行政官の育成を目的とした、4週間のASEANジュニアフェローシッププログラムに対して、2024年9月に設立されたASEAN・仏基金から10万米ドルを新たに拠出。

ASEAN主要6カ国はフランスとそれぞれ、AI・デジタル技術、エネルギー、農業、材料科学などに関する協力を推進している。

主な合意

AIや教育などに関するシンガポール・仏協力強化	2025年5月 仏大統領シンガポール国賓訪問	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二国間関係を包括的戦略パートナーシップに格上げ。 ・ AI、教育のほか、防衛・安全保障、民生用原子力エネルギーなどに関する協力の13の協定・覚書を締結。
AI分野でのマレーシア・仏協力強化	2025年2月 首脳電話会談	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貿易や観光に加え、AI、防衛、エネルギー分野での協力強化に合意。
デジタル分野でのタイ・仏協力強化	2025年1月 高級実務者会合	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイのデジタル変革に向けて、インフラ整備、貿易・投資促進、労働力育成、デジタルパートナーシップの促進、スタートアップやスマートシティの取り組みなどについて、意見交換。
高等教育、科学技術分野でのインドネシア・仏協力強化	2025年1月 高級実務者会合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共同研究、ジョイントディグリープログラム、ポスドクの仏留学などを通じて、協力を拡大。 ・ 食料安全保障、持続可能なエネルギー、水質、防衛技術、AI、半導体などに関する研究パートナーシップを強化。
ベトナム・仏科学技術協力に関する合意・覚書締結	2025年5月 高級実務者会合	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベトナム科学技術アカデミー・フランス国立科学研究センター (CNRS) 行動計画 (2025～2028年)、ハノイ科学技術大学 (USTH)・フランス開発機構 (IRD) 協力計画、USTH・VAST材料科学研究所・CNRSの共同研究プロジェクト実施について合意。
フィリピンにおける気候変動に強い農業に関する研究と地理的表示の支援	2025年4月 閣僚級会合	<ul style="list-style-type: none"> ・ フランス開発庁 (AFD) とフランス農業開発研究国際協力センター (CIRAD) がフィリピン知的財産庁を通じて100万ユーロを助成。

III. ASEAN 4. フランス：協力組織・協力分野

フランス政府やフランス国立科学研究センター (CNRS) の研究拠点がシンガポール、タイ、ベトナムに、工学系人材教育機関がマレーシアにそれぞれ設置されている。

主な協力組織		場所	協力分野
CNRS@CREATE		シンガポール	学際研究プロジェクト、人的交流、ASEAN地域での協力推進
MEAE・CNRS UMIFRE 現代東南アジア研究所 (IRASEC)		タイ	東南アジア各国の政治、社会、経済、環境、文化、宗教と地域統合の動向
フランス国立 科学研究セ ンター (CNRS) 国 際研究ラボ	CNRS国際NTU・タレス研究 アライアンス (CINTRA)	シンガポール (NTU)	ナノ材料、ナノエレクトロニクス、ナノフォトニクスのエネルギー、高周波、デバイス・センサー、光学・フォトニクスへの応用
	MajuLab (シンガポール・仏 量子センター)	シンガポール (NUS、 NTU)	量子物質物理学、量子制御システム、量子情報科学、量子エネルギー論の機械学習、量子コンピューティング・シミュレーション、量子通信、量子センシングへの応用
	AI国際研究ラボ (IPAL)	シンガポール (A*STAR、 NUS)	説明可能で信頼できるAI、AI・人間・コンピューターのインタラクション、自然言語処理、データサイエンスと応用、効率的なAI、スマート協働ロボット
	HealthDEEP	タイ (マヒドン大学、カセ サート大学)	ワンヘルスや生物多様性に関する共同研究、観測、人材育成、科学政策対話
	数学とその応用に関する仏・ ベトナム国際研究ラボ	ベトナム (ベトナム数学 高等研究所)	研究交流、大学院教育支援
クアラルンプール大学マレーシア・仏学院		マレーシア	学部・大学院) 工学教育 (機械、ロボティクスなど)

シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、ベトナムはフランス国立科学研究センター (CNRS) と共同研究を推進している。

主なプロジェクト		相手国	期間	協力分野
フランス国立科学研究センター (CNRS) 国際研究プログラム	DNAオリガミ	シンガポール	2024-2028年	DNA折り紙における非標準的な核酸構造の使用
	CHIRACHEM	タイ	2022-2026年	触媒・光触媒、分離、結晶化などの幅広い用途に向けたキラル金属表面の設計
	SPECIFLY	タイ	2023-2028年	ハエによる特殊受粉の生態と進化
	SORE-MNP	インドネシア	2023-2027年	クロザル (マカク) の社会性と生殖
	HYDROGENE	ベトナム	2025年-	光電気化学的水素製造に関する分子工学とナノ構造化によるハイブリッドシステムの最適化
CNRS国際研究ネットワーク	CREMA	マレーシア、タイ、インドネシア	2022-2026年	都市の遺産の記録とマッピング

タイ、インドネシア、ベトナムのほか、カンボジア、ラオスも、フランス開発機構 (IRD) との共同プロジェクトを実施している。

主なIRDプロジェクト	相手国	期間	協力分野
ASAMCOラオス・タイ	タイ、ラオス	2024-2026年	人獣共通感染症の発生と蔓延の防止
BURKH-OCCURプロジェクト	タイ	2024-2025年	タイの病原体 <i>Burkholderia pseudomallei</i> の分布と類鼻疽のヒト症例の監視と積極的診断
CaPThai	タイ	2023-2026年	タイにおける結核の検出と予防に関するガイドラインの改訂・更新のためのデータ収集
タイの流行地域におけるサルマリア伝播調査のための革新的アプローチ	タイ	2023-2025年	サルマリアを媒介するハマダラカの同定、防除法の開発
タイ・カンボジア国境沿いのマラリア媒介生物	タイ	2021-2025年	ハマダラカ抗唾液バイオマーカーを用いたマラリア伝染リスクのベースライン昆虫学データと評価
METABODEN	タイ	2024-2028年	脂質代謝がデング熱の伝染と発症に与える影響
ナーン省における連鎖球菌感染症の蔓延状況、多様性、リスク要因	タイ	2024-2025年	人間、豚、環境を対象としたワンヘルス研究
ROBOPUSA	タイ	2023-2025年	タイの農村地域における農薬の使用または非使用に関連したげっ歯類病原体の蔓延の評価
SEAVECT	タイ	2023-2025年	東南アジアの植物多様性に由来する忌避剤を用いたマラリアとデング熱媒介動物を標的としたグリーンベクターコントロール
VDOSAGE	タイ	2023-2027年	dsRNAモニタリングツールによるウイルス検出の検証

ASEAN各国はフランス開発機構 (IRD) との共同プロジェクトを、環境分野や保健・医療分野で実施している。

主なIRDプロジェクト	相手国	期間	協力分野
東南アジアにおける生物多様性の喪失と動態	タイ	2022年-	東南アジアにおける侵食と生物多様性パターンの動態
ナチュラル・フォレストア	タイ	2023-2025年	熱帯林再生の生物学的・生態学的・社会経済的メカニズムと二酸化炭素隔離・貯留、気候変動に及ぼす影響
SELAMAT (インドネシア海洋生物多様性監視実験所)	インドネシア	2021-2025年	海洋生物多様性、環境変化、人間社会の相互作用
ミミズがもたらす生態系サービスの理解と活用	ベトナム	2021-2025年	土壌動物、特にミミズが有機鉱物相互作用の形成に与える影響
CARE (ベトナム南部の低地沿岸地域における水資源とその変化の分析)	ベトナム	2024-2028年	水循環、人為的汚染、水管理、沿岸リスク
DRISA (東南アジアにおける薬剤耐性)	ベトナム	2023-2027年	生態系における抗生物質耐性の出現と伝播のメカニズム
LOTUS (陸・海洋・大気連結システム研究センター)	ベトナム	2023-2027年	ベトナムと東南アジアの沿岸地域における大気-大陸-海洋結合システムの物質輸送と社会との関係
SEA-ROADS	タイ、ベトナム、カンボジア、ラオス	2024-2028年	統合的かつ相互接続された都市部デング熱サーベイランスのための東南アジアと地域のワンヘルスアプローチ

フランス大手企業がシンガポールに設置する拠点には、オープンイノベーションや人材育成の機能を担っているものがある。政府や大学と連携した取り組みを実施する企業もある。

主な事業拠点設置企業	場所	重点分野
タレス・グループ	シンガポール (ホームチーム科学技術庁 (HTX)、NTU)	信頼できるAI、国境警備、量子、サイバーセキュリティ、アビオニクス
シュナイダーエレクトリック	シンガポール (シンガポール経済開発庁 (EDB))	脱炭素化戦略に関する人材育成
キャップジェミニ	シンガポール	データ分析、AI、認知コンピューティングに関する共創イノベーション
アルストム	タイ	鉄道・モビリティのデジタル化
エアバス	シンガポール	航空宇宙産業の脱炭素化、航空交通管理、人材育成
エンジー	シンガポール	スマートグリッド、ガス産業の脱炭素化
エシロール・ルクソティカ	シンガポール	近視管理ソリューション

ASEANはフランスと基金を設立して、人的交流などの協力強化を進めている。また、シンガポールはフランスとAI、量子、ロボティクスに関する協力を推進している。

ASEAN・仏基金 2024年9月～

- ASEANとフランス開発庁 (AFD) との協力を補完するとともに、「ASEAN・仏開発パートナーシップ：実践的協力分野 (2022～2026年)」の着実な実行を目指し、2024年2月の設立意向合意を経て、総額1,000万ユーロの基金を2024年9月に設立。
- 2024年11月、ASEANジュニアフェローシッププログラムに対して、10万米ドルの追加支出を決定。欧州連合 (EU) 内、多国間、ASEANとの二国間それぞれのフランスの政策決定プロセスを理解するためのフランスでの研修を実施し、ASEAN・仏の人的交流を強化。

仏大統領のシンガポール国賓訪問時に発表された主な二国間協力 2025年5月

cortAlx SG	仏・シンガポール量子協力	国家ロボティクスプログラム・CNRS協力
<ul style="list-style-type: none"> • シンガポール経済開発庁 (EDB) の支援を受けて、仏・タレスがAI研究・産業化の拠点として設立。 • シンガポール・民間航空局 (CAAS)、防衛科学技術庁 (DSTA)、ホームチーム科学技術庁 (HTX) とともに、航空、防衛、治安・セキュリティ分野の共同イニシアティブを開始。 	<ul style="list-style-type: none"> • シンガポール・国立量子オフィス (NQO)、NUS量子技術センター (CQT)、A*STAR (シンガポール科学技術研究庁) 高性能コンピューティング研究所 (IHPC) と仏・Quandelaが、量子エネルギーと量子フォトリクスにおける協力を拡大。 • シンガポール・国立量子コンピューティングハブを通じて、化学、材料科学、金融、最適化のためのハイブリッド量子AIアルゴリズムの共同開発を開始。 	<ul style="list-style-type: none"> • フランス国立科学研究センター (CNRS) がシンガポール・国家ロボティクスプログラムに参加し、エンボディッドAIの研究を強化。 • シンガポール政府が2,000万シンガポールドルを支援。

III. ASEAN 4. フランス：参考URL

p.87

<https://asean.org/wp-content/uploads/2022/11/ASEAN-France-PCA-2022-2026-Adopted.pdf>
<https://asean.org/asean-france-reaffirm-commitment-to-strengthen-partnership/>
<https://asean.org/asean-france-to-reinforce-cooperation/>
<https://www.afd.fr/en/actualites/communiqué-de-presse/fourth-meeting-asean-france-development-partnership-committee-france-strengthens-partnership-sustainable-and-resilient-development-southeast-asia>
<https://asean.org/asean-france-reaffirm-efforts-to-propel-partnership/>
<https://asean.org/wp-content/uploads/2025/02/Overview-of-ASEAN-France-Development-Partnership-February-2025.pdf>

p.88

<https://www.mfa.gov.sg/Newsroom/Press-Statements-Transcripts-and-Photos/2025/05/300525-State-Visit-by-President-of-the-French-Republic-Emmanuel-Macron-to-Singapore>
<https://www.mida.gov.my/mida-news/malaysia-france-to-boost-cooperation-in-ai-defence/>
<https://opengovasia.com/2025/01/07/thailand-and-france-look-to-deepen-digital-cooperation/>
<https://en.antaranews.com/news/357013/indonesia-france-deepen-ties-in-higher-education-science-and-tech>
<https://vast.gov.vn/web/vietnam-academy-of-science-and-technology/tin-chi-tiet/-/chi-tiet/vietnam-academy-of-science-and-technology-and-national-research-institutes-and-universities-of-france-connecting-tradition-expanding-the-future-140097-917.html>
<https://www.pna.gov.ph/articles/1247977>

p.89

<https://www.unikl.edu.my/institutes/mfi/>
<https://www.cnrsatcreate.cnrs.fr/>
<https://singapore.office.cnrs.fr/partnerships-per-country/>

p.90

<https://singapore.office.cnrs.fr/partnerships-per-country/>
<https://usth.edu.vn/usth-ky-ket-thoa-thuan-hop-tac-voi-cnrs-va-ird-phap-25597/>
<https://en.ird.fr/asia>

p.91

<https://singapore.office.cnrs.fr/partnerships-per-country/>
<https://usth.edu.vn/usth-ky-ket-thoa-thuan-hop-tac-voi-cnrs-va-ird-phap-25597/>
<https://en.ird.fr/asia>

p.92

<https://en.ird.fr/asia>

p.93

<https://www.airbus.com/en/about-us/our-worldwide-presence/airbus-in-asia-pacific/airbus-in-Singapore>
<https://www.airbus.com/en/newsroom/press-releases/2024-02-airbus-to-launch-sustainable-aviation-hub-in-singapore>
<https://www.se.com/sg/en/about-us/newsroom/news/press-releases/schneider-electric-to-establish-sustainability-competency-centre-for-asia-in-singapore-645c4d0b9f7972c00d0806e2>
<https://www.capgemini.com/sg-en/applied-innovation-exchange/>
<https://www.alstom.com/press-releases-news/2023/11/alstom-expands-presence-thailand-new-digital-mobility-lab>
https://www.thalesgroup.com/en/worldwide/defence-and-security/press_release/cortaux-sg-thales-accelerates-trusted-ai-innovation
<https://sg.linkedin.com/company/engie-lab-singapore>
<https://www.fccsingapore.com/news/n/news/essilorluxottica-announced-the-inauguration-of-its-singapore-rd-center-in-singapore.html>

p.94

<https://asean.org/secretary-general-of-asean-meets-with-the-secretary-general-of-the-ministry-for-europe-and-foreign-affairs-of-the-french-republic/>
<https://www.mddi.gov.sg/newsroom/opening-remarks-by-minister-josephine-teo-at-france-singapore-frontier-technologies>
https://www.thalesgroup.com/en/worldwide/defence-and-security/press_release/cortaux-sg-thales-accelerates-trusted-ai-innovation
<https://nqo.sg/article/mou-signing-between-nqo-cqt-ihpc-and-quandela/>
https://www.linkedin.com/posts/cnrs-create_signing-of-a-memorandum-of-understanding-activity-7335165818676068352-nVKb



III. ASEAN 5. 中国

ASEANは中国と、5か年計画に基づき、科学技術イノベーション協力を推進している。
ASEAN主要6か国のうち4カ国とは、包括的協力の下で関係強化を促進している。

- ASEANは中国と、政府レベルでの中・ASEAN行動計画の策定を通じて、STEM (科学・技術・工学・数学) 分野での人的交流、通信・デジタル分野での政策交流や研究協力など、協力関係を強化している。2025年5月の首脳会議は、湾岸協力理事会とASEAN、中国の3者で初めて開催し、アジア・太平洋と中東の協力関係の構築も促進している。
- ASEANは継続的に中国への留学を支援しているほか、2025年初頭以来、広西チワン族自治区とのAIに関する協力を急速に推進している。
- ASEAN主要6か国（シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、ベトナム、フィリピン）のうち、フィリピンを除く5カ国は、中国と包括的戦略的パートナーシップの下で、協力内容を具体化している。特に、マレーシア、タイ、ベトナムは、AIなどの新興技術を中心に、共同研究所の設置や共同研究プロジェクトの実施などに合意し、関係を強化しつつある。
- シンガポール、タイ、インドネシアには、中国との研究協力組織が設置されている。特にシンガポールは、中国の大学との共同研究・協力拠点、企業の事業拠点、二国間大型開発プロジェクトなどを通じて、様々な協力活動を展開している。

ASEANは中国と首脳・閣僚級会議での合意に基づいて、科学技術イノベーション協力を推進している。中東との協力も中国と共同で拡充している。

主な合意

STI強化プログラムの推進に関する 中・ASEAN共同イニシアティブ	2023年6月 第26回ASEAN・ 中首脳会議	<ul style="list-style-type: none"> 「未来のためのSTI (科学技術イノベーション) パートナシップ強化に関する中・ASEAN行動計画 (2021-2025年)」に基づき、さらなる協力強化のため中国がASEANに提案し、承認。 人的交流の強化、研究協力プラットフォームの構築、技術移転・アントレプレナーシップ協力の促進、重点分野におけるイノベーション協力の強化、政策対話を推進。
通信・デジタル技術協力に関する ASEAN・中覚書	2024年2月 第4回ASEAN・中 デジタル大臣会合	<ul style="list-style-type: none"> 2024～2029年の間、デジタル分野におけるインフラ開発、新興技術、セキュリティ、リテラシーなどについて協力を推進し、国境を越えたデジタル連結性を促進。
持続可能かつ包摂的なデジタルエコシステムの構築における協力促進に関するASEAN・中共同声明	2024年10月 第27回ASEAN・ 中首脳会議	<ul style="list-style-type: none"> デジタル分野における政策交流、インフラ開発、新興技術、産業DX (デジタルトランスフォーメーション) などについて協力を強化。 今後、中・ASEAN行動計画 (2026-2030年) を策定予定。
人的交流の協力深化に関する ASEAN・中共同声明	2024年10月 第27回ASEAN・ 中首脳会議	<ul style="list-style-type: none"> STEM (科学・技術・工学・数学) 分野での学生交流の拡大、東アジア研究の協力強化など、教育における協力を促進。 STIについても、デジタル技術の応用などの共同研究や人的交流を促進し、女性・若手の参画を強化。
ASEAN・湾岸協力理事会・中首 脳会議共同声明	2025年5月	<ul style="list-style-type: none"> アジア・太平洋と中東の地域協力と経済発展について初の3者による首脳会議を開催。 デジタル経済やエネルギー・環境、食料・農業分野における技術協力、STEM分野での人的交流・研究協力などを強化。

ASEAN主要6カ国のうち、南シナ海問題で対立するフィリピンを除く各国は中国とそれぞれ、包括的な協力関係の下で科学技術イノベーション協力分野を具体化している。

主な合意

中国・シンガポールの幅広い分野における二国間協力の強化	2024年11月 第20回二国間協力 合同委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 強固なパートナーシップに基づき、戦略的協力を強化。 ・ 一帯一路構想、貿易、デジタル経済、科学技術イノベーションなど、25の覚書・協定に署名。
未来を共有するハイレベル戦略共同体の構築に関する中・マレーシア 共同声明	2025年4月 マレーシア・中首脳会 談	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包括的戦略的パートナーシップを促進し、ともに未来を共有するハイレベル戦略共同体の構築に向けて協力を強化。 ・ 経済・貿易、外交、STIなど幅広く31の覚書を締結。
包括的戦略パートナーシップの推進 と未来を共有する共同体の構築 に関するタイ・中共同声明	2025年2月 タイ・中首脳会談	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包括的戦略的パートナーシップを促進し、両国の未来を共有する共同体の構築に向けて協力を強化。 ・ 経済、農業、STIなどに関する14の覚書を締結。
包括的戦略パートナーシップと未来 を共有する共同体の発展に関する 中・インドネシア共同宣言	2024年11月 インドネシア・中首脳 会談	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政治、経済、人的交流、海洋に安全保障を加えた5本柱の協力を強化。 ・ 7つの戦略的協力文書に署名。
包括的戦略パートナーシップの深化 と未来を共有する共同体の構築 に関するベトナム・中共同声明	2025年4月 ベトナム・中首脳会談	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包括的戦略的パートナーシップを深化させ、戦略的意義を持つ未来を共有する共同体の構築を推進。 ・ インフラ、農業、STI、教育など幅広く45の協力協定に署名。
フィリピン・科学技術省 (DOST)・ 中・科学技術部 (MOST) 2024年 共同プロジェクト実施ガイドライン	2023年9月 フィリピン・中第16回科 学技術合同委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健、農業、エネルギー・産業、AIや量子コンピューティングを含むハイテクの各分野で協力。

ASEANと中国の技術・経済協力推進や中国語教育を担う組織が、ASEAN各国に設置されている。シンガポール、タイ、インドネシアには共同研究・協力拠点も設置されている。

主な協力組織	場所	協力分野
ASEAN・中国協力基金 (ACCF)	インドネシア	農業、ICT、メコン河下流域開発、貿易、観光、教育、科学技術、環境に関するセミナー開催、人材育成、人的交流など
孔子学院	シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、ベトナム、フィリピン、カンボジア、ミャンマー、ラオス	中国語教育
NUS-ZIBS (浙江大学国際ビジネススクール) サプライチェーン管理・財務共同ラボ	シンガポール (NUS)	サプライチェーン管理・財務に関する高度なツールと方法論の開発
NTU-PKU (北京大学) 共同研究所	シンガポール (NTU)	シンガポール「スマートネーション構想」に関する共同研究、人的交流
中国・タイ気候・海洋生態系共同研究所	タイ	海洋環境・気候変動に関する研究、サンゴ礁・絶滅危惧種の監視
タイ学術研究会議 (NRCT) 中国・タイ戦略研究センター	タイ	学術研究・交流促進
中国科学院イノベーション協力センター	タイ	人的交流、経済・産業発展のための技術・政策に関する支援
中国・インドネシア新エネルギー材料・冶金工学技術共同研究所	インドネシア (ITB)	新エネルギー材料と冶金工学技術に関する共同研究、大学院教育・デュアルディグリープログラム、人的交流

ASEANと中国の技術・経済協力推進を担う組織が、中国にも設置されている。シンガポールは共同研究・協力拠点設置のほか、政府間プロジェクトも数多く推進している。

主な協力組織	場所	協力分野
ASEAN・中国センター	中国	貿易、投資、教育、文化、観光、情報・メディア
中国・ASEAN技術移転センター (CATTC)	中国	技術移転サービス、先進技術のデモンストレーション
中国・ASEAN公衆衛生科学技術協力センター	中国	公衆衛生に関する研究開発、人材育成、情報交換
中国・シンガポール国際共同研究院 (CSIJRI)	中国	ICT、生命・健康科学、新エネルギー、新素材、グリーンビルディング・スマートシティ、汚染制御・環境修復
NUS研究所 (NUSRI) 中国	中国 (蘇州、重慶、広州、福州)	研究、イノベーション、教育、企業
済南-NTUグリーンテクノロジー研究所	中国	健康、農業、エネルギー、医療、教育、製造などに関するグリーンテクノロジーの研究開発、人材育成、産業応用・商業化
A*STARパートナーセンター (A*PC)	中国 (蘇州)	シンガポール企業の中国での事業拡大・研究開発・製品化支援
北京・香港・シンガポール非線形・複雑系共同センター	香港	非線形科学
中国・シンガポール蘇州工業園区	中国	グリーン開発、バイオメディカルサイエンス、デジタル経済などの企業間連携
中国・シンガポール天津エコシティ	中国	エコシティ開発実証、投資促進
中国・シンガポール (重慶) 戦略的連結性実証イニシアティブ	中国	金融サービス、航空、運輸・物流、ICTにおけるイノベーションとビジネス連携の促進
中国・シンガポール広州ナレッジシティ	中国	都市計画、人材開発、経済開発、ビジネスインキュベーション、環境管理

中国大手企業もシンガポールに事業拠点を設置し、データセンターを積極的に建設するなどサービス拡充を推進している。フィンテックの研究開発拠点も設置している企業もある。

主な事業拠点設置企業	場所	重点分野
アリババ	シンガポール (NTU)、マレーシア、フィリピン	AI、クラウドコンピューティング、DX (デジタルトランスフォーメーション)
ByteDance	シンガポール、マレーシア、タイ	データセンター
テンセント	シンガポール、タイ、インドネシア	データセンター
ファーウェイ	シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、ベトナム、フィリピン	AI、クラウドサービス、無線・光ネットワーク、データセンター、DX
ZTE	シンガポール、タイ、フィリピン、バングラデシュ	5G、AI、スマート製造、データセンター
中国銀行	シンガポール	フィンテック
上海浦東発展銀行	シンガポール	フィンテック
WeBank (微衆銀行)	シンガポール (NTU)	フィンテック

フィリピンを除くASEAN主要5カ国は中国との研究・教育に関する協力を強化している。
マレーシア、タイ、ベトナムは、AIなどの新興技術を中心に、具体的な協力を促進している。

科学技術イノベーション協力関連の中国との覚書・協定・合意

シンガポール 2024年11月	<ul style="list-style-type: none"> • A*STARと中国科学院 (CAS) の協力協定 • シンガポール国立研究財団 (NRF) と中・科学技術部 (MOST) のSTI協力実施協定の更新 	<ul style="list-style-type: none"> • 両国教育部の大学協力に関する行動計画 • 両国教育部の教育技術協力に関する行動計画
マレーシア 2025年4月	<ul style="list-style-type: none"> • 新興技術に関する共同研究所の建設に対する両国政府の共同支援 • AIによる新素材開発 (new AI+ materials) のための共同研究所設立に関する北京大学とマラヤ大学の覚書 • AIに関するマレーシア・デジタル省と中・国家発展改革委員会 (NDRC) 覚書 	<ul style="list-style-type: none"> • 知的財産協力に関する覚書 • 中国・マレーシア国際高等教育学院の共同設立に関する厦門大学とマラヤ大学の覚書 • デジタル変革・AI・スマートシティに関するマレーシアデジタル経済公社から浙江大学への意向書
タイ 2025年2月	<ul style="list-style-type: none"> • AI協力促進に関するタイ・デジタル経済社会省と中・NDRCの覚書 • AIに関する共同研究所設立の協力に関するタイ・高等教育・科学研究・イノベーション省と中・MOSTの覚書 	<ul style="list-style-type: none"> • 嫦娥7号ミッションによる月探査用ホドスコープに関するタイ・高等教育・科学研究・イノベーション省と中・国家航天局の覚書 • 原子力技術の平和利用に関するタイ・高等教育・科学研究・イノベーション省と中・原子力庁の覚書
インドネシア 2024年11月・ 2025年5月	<ul style="list-style-type: none"> • ブルーエコノミー協力強化覚書 • 農業、インフラ、グリーン経済、AI、教育などに関する協力の拡大の可能性 	
ベトナム 2025年4月	<ul style="list-style-type: none"> • AI、クリーンエネルギー、持続可能な開発、デジタル経済などの新興分野における協力 • AI、半導体、原子力を中心とした科学技術協力の強化 	<ul style="list-style-type: none"> • 医療、医薬品、防災、クリーンエネルギー、持続可能な農業分野における共同研究の開始 • 技術人材育成、技術移転、両国研究機関・企業間の共同研究プロジェクトや人的交流の促進

シンガポールは中国との覚書に基づく公募を着実に実施している。また、ASEANは中国への留学支援を継続しているほか、AIに関する中国との協力を急速に強化している。

中国（CAS）・シンガポール（A*STAR）共同提案募集「気候変動へのレジリエンスと適応」

プロジェクトあたり支援規模

- ・ 資金）中国：75万元、シンガポール：25万シンガポールドル
- ・ 期間）最長3年

スケジュール

- ・ 公募）2025年6月5日～7月30日
- ・ 審査・決定）2025年8月～2026年3月（最大6プロジェクト）
- ・ 開始）2026年4月

分野

- ・ 気候変動に対する都市のレジリエンス（材料、設計、モデリング、シミュレーション）
- ・ 食品のレジリエンス（サプライチェーンと栄養）
- ・ 公衆衛生の回復力（熱中症、メンタルヘルス）
- ・ 災害への備えとリスク軽減（早期警報システム、強靱な重要インフラ）

ASEAN大学ネットワーク（AUN）奨学金

	中国-AUN奨学金	ASEAN-中国若手リーダー奨学金（ACYLS）
中国側支援機関	中国国家留学基金管理委員会（CSC）	ASEAN・中国協力基金（ACCF）
対象	中国の大学院 に留学するASEAN各国の学生	中国に留学するASEAN各国の大学院学生・研究者
支援期間	修士）最大3年 博士）最大4年	修士）2-3年 博士）3-4年 研究者）4-5か月

ASEANと広西チワン族自治区のAI協力強化

- ・ 2025年2月、中国・ラオスAIイノベーション協力センター（ビエンチャン）の建設を発表。
- ・ 2025年6月、中国・ASEAN AIイノベーション協力センター（南寧市）へ第1弾となるASEAN6か国16企業が入居、AIに関する産業集積、技術開発、人材育成などを推進。

III. ASEAN 5. 中国：参考URL

p.98

<https://asean.org/wp-content/uploads/2024/06/Overview-of-ASEAN-China-CSP-12-June-2024.pdf>
<https://asean.org/wp-content/uploads/2023/09/FINAL-Chairmans-Statement-of-the-26th-ASEAN-China-Summit.pdf>
https://www.mfa.gov.cn/eng/wjb/zzjg_663340/yzs_663350/dqzywt_663588/202406/t20240606_11382166.html
<https://asean.org/wp-content/uploads/2023/09/FINAL-Chairmans-Statement-of-the-26th-ASEAN-China-Summit.pdf>
https://asean.org/wp-content/uploads/2024/02/ENDORSED-4th-ASEAN-Digital-Ministers-Meeting-JMS-CN_JP_ROK_IN_US_EU_ITU_APT-CLN-v1-CLN.pdf
<https://www.mddi.gov.sg/newsroom/singapore-chairs-4th-adgmin-meeting>
<https://asean.org/wp-content/uploads/2025/01/15-ENDORSED-JOINT-MEDIA-STATEMENT-5th-ADGSOM-v2-Cleaned.pdf>
<https://asean.org/wp-content/uploads/2024/10/3.-2024-ASEAN-China-JS-on-Deepening-Cooperation-in-P2P-Exchanges-Final.pdf>
<https://asean.org/asean-china-strengthen-commitment-to-advancing-comprehensive-strategic-partnership/>
<https://asean.org/wp-content/uploads/2025/05/Final-Joint-Statement-of-the-ASEAN-GCC-China-Summit-27-May-2025.pdf>

p.99

<https://www.pmo.gov.sg/Newsroom/20th-Joint-Council-for-Bilateral-Cooperation-in-Singapore>
<https://www.kln.gov.my/web/guest/-/joint-statement-between-the-people-s-republic-of-china-and-malaysia-on-building-a-high-level-strategic-malaysia-china-community-with-a-shared-future-1>
<https://www.mfa.go.th/en/content/joint-statement-th-ch-2025-en>
<https://kemlu.go.id/daftar-joint-statement/joint-statement-between-the-peoples-republic-of-china-and-the-republic-of-indonesia-on-advancing-the-comprehensive-strategic-partnership-and-the-china-indonesia-community-with-a-shared-future?type=publication>
<https://setkab.go.id/en/president-prabowo-president-xi-jinping-witness-signing-of-cooperation-agreements/>
<https://setkab.go.id/en/president-prabowo-premier-li-qi-ang-witness-12-strategic-mous-signing/>
<https://en.vietnamplus.vn/vietnam-china-issue-joint-statement-post315453.vnp>
http://en.cppcc.gov.cn/2025-04/15/c_1085693.htm

p.100

<https://accf-asean-china.com/>
<http://www.asean-china-center.org/english/index.htm>
<https://iiora.nus.edu.sg/nus-zibs-joint-lab-of-supply-chain-management-finance/>
<https://www.ntu.edu.sg/ntu-pku-jri>
<https://news.cgtn.com/news/2024-07-10/China-Thailand-joint-laboratory-marks-decade-of-marine-cooperation-1v7BHJewwRG/p.html>
https://cnsites.chinadaily.com.cn/2023wacsen/2024-03/12/c_179246.htm
<https://www.casicb.com/>
<https://itb.ac.id/news/itb-jatinangor-launches-china-indonesia-joint-research-laboratory-for-new-energy-and-metallurgical-engineering/61545>

p.101

<http://www.asean-china-center.org/english/index.htm>
<https://www.linkedin.com/company/china-asean-technology-transfer-center>
<https://casph.bjmu.edu.cn/English/NEWS/index.htm>

p.101

<https://www.csijri.com/English/index.aspx>
<https://nusrichina.nus.edu.sg/>
<https://www.a-star.edu.sg/enterprise/innovation-platforms/apc>
<https://www.sci.hkbu.edu.hk/pages/beijing-hong-kong-singapore-joint-centre-for-nonlinear-and-complex-systems?lang=en>
<https://www.mfa.gov.sg/SINGAPORES-FOREIGN-POLICY/Countries-and-Regions/Northeast-Asia/Peoples-Republic-of-China>
<https://www.pmo.gov.sg/Newsroom/20th-Joint-Council-for-Bilateral-Cooperation-in-Singapore>
<https://www.mnd.gov.sg/tianjinecocity/who-we-are>
<http://imda.gov.sg/about-imda/international-relations/international-partnerships/china-singapore-demonstration-initiative-on-strategic-connectivity>
<https://knowledgehub.clc.gov.sg/publications-library/sino-singapore-guangzhou-knowledge-city-a-new-paradigm-in-collaboration>

p.102

https://www.alibabacloud.com/blog/alibaba-cloud-celebrates-10-years-in-singapore-with-new-data-centers-and-ai-global-competency-center_602337
<https://www.mingtiandi.com/real-estate/data-centres/singapore-picks-airtrunk-equinix-gds-and-microsoft-in-data-centre-pilot-programme/>
<https://www.mida.gov.my/media-release/bridge-data-centres-and-bytedance-celebrate-grand-opening-of-the-first-phase-hyperscale-data-centre-my06-in-johor-malaysia/>
<https://www.reuters.com/technology/bytedances-tiktok-invest-88-bln-thailand-data-centres-official-says-2025-02-28/>
<https://www.tencentcloud.com/document/product/239/4106>
<https://asia.nikkei.com/Business/China-tech/Alibaba-Huawei-race-to-gain-edge-in-Southeast-Asia-s-cloud-market>
<https://asia.nikkei.com/Business/Telecommunication/Huawei-steps-up-ASEAN-foray-with-Singapore-lab-revamp>
<https://www.huawei.com/my/news/my/2021/prime-minister-launches-huawei-customer-solution-innovation-center>
<https://vir.com.vn/huawei-to-develop-5g-innovation-centre-in-vietnam-109800.html>
<https://www.zte.com.cn/global/about/magazine/zte-technologies/2022/6-en/1/2.html>
<https://www.zte.com.cn/global/about/news/zte-idc-service-debuts-at-indonesia-cloud-and-data-center-convention.html>
<https://www.mas.gov.sg/development/fintech/fintech-innovation-labs>
<https://www.ntu.edu.sg/research/industry-research-collaborations/industry-partnerships>

p.103

<https://says.com/my/news/malaysia-china-sign-31-agreements-breakdown-understand-details>
<https://www.thaigov.go.th/news/contents/details/93208>

p.104

<https://www.a-star.edu.sg/Research/funding-opportunities/china-singapore-joint-call-for-proposals-on-climate-resilience-adaptation-2025>
<https://www.aunsec.org/aun-action/scholarships/china-aun-scholarship>
<https://www.aunsec.org/aun-action/scholarships/asean-china-young-leaders-scholarship-20252026>
<https://j.people.com.cn/n3/2025/0225/c95952-20281132.html>
<https://j.people.com.cn/n3/2025/0701/c94476-20334823.html>
<https://fddi.fudan.edu.cn/fddien/24/bc/c19505a730300/page.htm>
<https://aiii.global/waic-2025-china-asean-ai-forum/>



III. ASEAN 6. 小括

ASEANは欧米5か国・中国とそれぞれ、科学技術イノベーション協力の方針策定と具体化に取り組み、関係強化を図っている。

- ASEANは、米国、英国、ドイツ、フランス、中国とそれぞれ、政府レベルでの二国間合意に基づき、中長期的な方針や計画を策定し、具体的な協力活動を推進している。
- 米国とは、米・国際開発庁 (USAID) とのパートナーシップの下で、大規模な開発プロジェクトを長期間推進してきた。さらに近年、英国とは、新興技術に関する短期プロジェクトの実施、ドイツとは、技術職業教育訓練 (TVET) における協力、フランスとは、基金の設置による協力関係強化、中国とは、中東も含めた3者間の協力関係の構築など、それぞれ特色のある活動を展開している。
- ASEAN主要6か国のうち、シンガポールは、欧米中各国と、政府関連機関、大学、企業の拠点などを通じて、様々な協力活動を実施している。特に中国とは、大型開発プロジェクトを数多く推進しているほか、フランスとは2025年5月、新興技術に関する協力を合意し、関係を強化している。
- マレーシア、タイ、インドネシア、ベトナムはそれぞれ欧米各国と、研究・教育に関して人的交流も含めた協力を推進している。また、マレーシア、タイ、ベトナムはそれぞれ中国と、AIなどの新興技術に関する協力を合意しており、インドネシアも、中国との関係強化を図りつつある。
- フィリピンは近年、米国、英国とそれぞれ初の科学技術合同委員会を開催するなど、欧米各国との協力を強化している。
- ASEANとの協力において重要な役割を果たしてきたUSAIDの廃止後、ASEANとその加盟国がそれぞれ、欧米中各国とどのような関係を築いていくのか、特に、米中両国との間のバランスをどのように取っていくのか、留意が必要である。



IV. おわりに

まとめ

- インド・ASEANは、欧米主要国（米国、英国、ドイツ、フランス）とそれぞれ、政府レベルでの二国間合意や、政府関連機関、大学、企業の拠点などを通じて、様々な協力活動を実施している。
- インドは、米国、ドイツ、フランスとそれぞれ共同で設立した組織（印米科学技術フォーラム (IUSSTF)、印独科学技術センター (IGSTC)、印仏先端研究推進センター (IFCPAR/CEFIPRA))を通じて、科学技術イノベーション協力を推進している。また、インド政府は、高等教育の国際化のため、世界トップレベルの外国大学の国内誘致を掲げており、英国大学のキャンパス設置について歓迎する意向を表明している。
- ASEANは、米国とは米・国際開発庁 (USAID) とのパートナーシップの下、科学技術イノベーション協力を推進してきたほか、近年、英国、ドイツ、フランスとも、中長期的な方針の下、研究・教育に関する具体的な協力に取り組んでいる。ASEAN主要6か国（シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、ベトナム、フィリピン）もそれぞれ、各国の状況に応じて、欧米主要国や中国と様々な協力関係を構築している。
- インドでは、中国との具体的な科学技術イノベーション協力が認められないが、ASEANでは、中国、中東の3者の協力関係の構築、シンガポール、マレーシア、タイ、ベトナムでは、新興技術などに関する協力の強化が図られている。
- 今後の地政学的状況とともに、インド・ASEANと欧米主要国や中国の科学技術イノベーション協力の進展を注視しつつ、日本はどのような協力関係を構築していくのか、検討が求められる。

調査担当：福田 佳也乃（アジア・太平洋総合研究センター 副調査役）

協力：光盛 史郎（アジア・太平洋総合研究センター フェロー）、斎藤 至（アジア・太平洋総合研究センター フェロー）

トピック調査

APRC-FY2025-TP-01

インド・ASEANにおける欧米中との国際科学技術イノベーション協力状況

Overview of International Science, Technology and Innovation Cooperation of India and ASEAN with Europe, the US and China

2025年8月発行 Published in August 2025
ISBN 978-4-86829-005-6

本報告書に関するお問い合わせ先：
国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）アジア・太平洋総合研究センター（APRC）
Asia and Pacific Research Center, Japan Science and Technology Agency
〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's五番町
Tel: 03-5214-7556 E-Mail: aprc@jst.go.jp
<https://www.jst.go.jp/aprc/>

Copyright © Japan Science and Technology Agency

本書は著作権法等によって著作権が保護された著作物です。著作権法で認められた場合を除き、本書の全部又は一部を許可無く複製することを禁じます。転載を希望される際は、事前に上記お問い合わせ先迄ご連絡ください、引用を行う際は、必ず出典：JST/APRCレポート「インド・ASEANにおける欧米中との国際科学技術イノベーション協力状況」として記述願います。

This report is protected by copyright law and international treaties. No part of this publication may be copied or reproduced in any form or by any means without permission of JST, except to the extent permitted by applicable law. Any quotations must be appropriately acknowledged. If you wish to copy, reproduce, display or otherwise use this publication, please contact APRC.